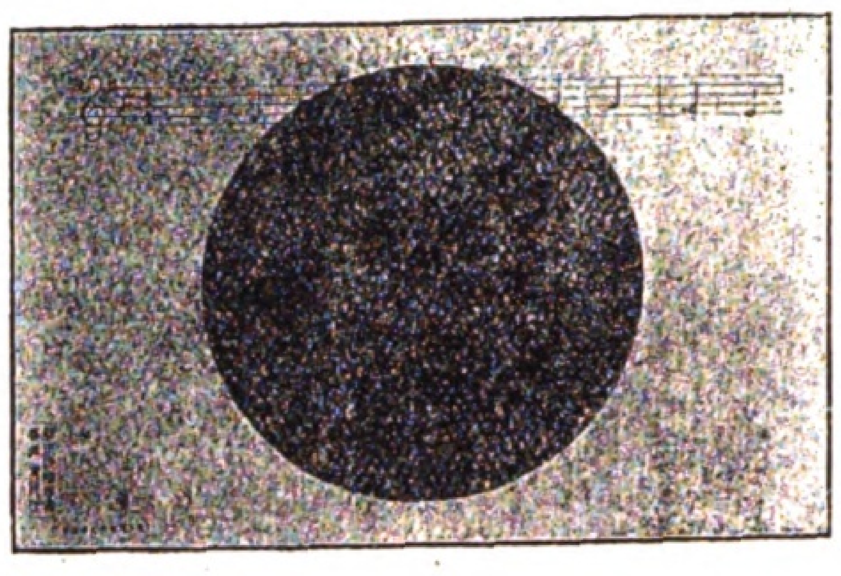
發行所 東京麹町區牛ヶ淵公園 愛國婦人發行所 △振替貯金口座番號第壹壹參八壹番 ●電話番町一五二〇・一七四五番 ▽發賣所 東京京橋區南鍋町 隆文館 △振替貯金口座八五三〇番 ●電話新橋二五八六・四四三二番

愛國婦人

每月五日二十日發行
一部金三錢 壹ケ月金六錢 半年分參拾六錢 全國無遞送料
廣告料一行六十錢
本號全部禁轉載
東京麹町區(牛ヶ淵公園)
發行所 愛國婦人發行所
印刷兼發行人 山澤俊夫
編輯人 永持德一

紀元節紀念號



奥村五百子氏紀念號

帝國憲法は獨り男子の爲めのみに發布されしものならざるや云ふまでもなし。過ぎにし明治二十三年我が帝國憲法發布されしより爰に二十年、而して其の第二十回目に當れる紀元節の紀念日は近く數日の裡に在り。世の男性等よ、女だてらとな曰ひそ。我愛國婦人會は君を思ひ、國を愛する熱情いと厚き、七十餘萬愛國婦人の大團體にして、我「愛國婦人」は斯る熱誠の愛國婦人諸姉より愛讀さるゝ、帝國唯一最大部數を印行しつゝある最良の家庭教育雜誌なり。その家庭雜誌「愛國婦人」の、こゝに此「紀元節紀念號」を愛讀者たる愛國婦人に分つ、これ決して偶然にはあらざるぞかし

紀元節の御事

關根正直 謹誌

愛國婦人編輯主任より紀元節に關する一文を寄せよと求められぬ。仍て蕪詞を綴りて此の佳節の由來を申さんとす。謹んで按ずるに、掛け卷くも畏き神武天皇の建國紀元を慶賀し奉る大典は、今の明治の聖代に至りて、始めて定め給へる御事と申し奉るべし。古來の公事舊儀を記したる書どもによれば、元旦の四方拜に天地四方山陵を拜し給ふとある山陵も十二月の荷前にも十陵と申すも、皆天智天皇の山階の御陵以下を指し奉る事と聞えたり。

そもそも皇祖天照大神は、國家の大廟として伊勢に齋き奉り、おごそかなる儀を以て祭らせ給ひ、年々奉幣の勅使も參る例なりしが、いかなる故にか皇宗と申し奉るべき神武天皇は、古來何國に宮柱太敷き立てゝ祭り奉りたりとも承り及ばず大和國畝傍の山陵すら、今より百年程前までは御構への玉垣だにしたゝかにしもあらねばにや、木こり草かりの賤の男女が御あたりを踏み荒らし奉りたりとも聞ゆるぞいとも畏こき御事なりける。

然るに今上天皇王政復古の御偉業を起させ給ふにあたり、範を神武天皇の建國創業の御遺績にとり給ふ由にて、當時の詔勅には、一度ならず、さる御旨趣を宣らせ給ひたりき、私かに惟みるに、是れは元石見國の碩學野々口隆正翁の主唱に基因しつるなるべし。翁の說に曰く、後醍醐天皇の中興を企て給ひしは、醍醐村上兩帝の御治世に復さむとに外ならずして、恐れある言ながら、御規模大なりと申す可からず、今や內外多事なれば、幕府の政權を回復して、神武天皇建國創業の古に則るといふ大義を立て給ふべきなりといへり。其の門人玉松操翁は岩倉具視公の知遇をうけしが、公の皇謨を翼贊し奉るや、翁の畫策したる所多きに居ると、公自ら功を翁に讓られし程なるが此の翁亦師說を紹述し、切りに神武創業の古に復すべしとの義を唱へて、公を始め在朝の有司を動かしたり。さてこそ當時の詔勅にもしばしば此の旨を宣らせ給ひたるなれ。

かゝる旨趣よりして、翁は遂に神武天皇建國を紀元とすべき由の建議をなしぬ。朝廷其の議を容れ給ひて、爰に始めて紀元節の祝典を擧げ給ふ事とは定りけらし。

かゝれば、今は三大節の一つとして、いと莊嚴に執り行はせ給ふ今日の紀元節よ布衣の學士の說を採納し給ひしより起りしなり。豈尊く畏こからずや。此の事明治の聖世に生るゝ國民の心得てあるべき儀ぞと思ふまゝに、まづ其の母たる人に語らむとてなり。ゆめ、おろそかに思ふ事勿れ。

奥村五百子女史の一周忌

編輯主任 永持德一

指纔ふれば早や一歳の往昔となりぬ。梅ちらほらと咲く二月七日の眞晝時を過ぐること二時間といふ時、我が愛國婦人會の主唱者奥村五百子女史は、六十二年の變化、波瀾に富めりし生涯を後に、京都大學病院の一室にしつらはれし最後の臥床に『愛國婦人會』の一言を遺して幽冥境を異にする人とはなりき。

未だ妙齢の身を以て、志を韓國に立て、令兄奥村圓心師の、遠祖が力を韓國布敎に盡せる史蹟を回想して、その老軀を提げて入韓し邦家の爲めに奔命に勞るを助け、日韓の間を往來して社會公益を謀ることを念とせりし女史は、三十三年義和團の變起るに及びて、更に本願寺の囑を帶びて、北清の地に我が軍人を慰問し其艱苦慘憺の狀を目擊するや、天資の熱情默止すること能はず、是に於てか大に之を天下に訴へ、こゝに初めて我が愛國婦人會は起れるにぞありける。

今年、梅ちらほらと咲き出づる今日此頃僅かに十萬の會員を得ば足れりとして故近衛公爵の助力を仰ぎて女史が發起せる我愛國婦人會は、總裁閑院宮妃殿下、會長岩倉公爵夫人を始め、役員及び會員諸氏の誠意努力により、會員の數既に其の七倍、七十有餘萬に上れるに、主唱者として渾身の熱誠を此會の爲めに捧げ盡せし五百子女史は、祭壇に涙を灑ぎて其の一周忌を弔はるゝ過去の人となりぬ。年々歳々、花相同じけれども、歳々年々、人相同じからざるぞ、うたて覺ゆれ。

想起す、日露互に戈を交へし日、滿洲の風塵に塗れ盡して、我が愛國婦人會の本領を發揮せりし女史の風姿、『半襟一掛』の題目を唱へて、南船北馬帝國軍人の爲めに同情の絕叫を爲せりし女史の俤。その俤は、われ、人の心の眼に遺れども、幽冥相語るよすが無きこそ、うたてさの極みなれ。されど、女史が筐の我婦人會は今や女史が豫想に十倍の發展を致しつゝあれば、最後の際まで念頭を去らしむること能はざりし此會に對する女史が熱誠は、生きて斯土に働きつゝありとも云ふべきか。さらば、近く來る七日を以て營まるべき女史の一周忌法要には、親疎となく、貴賤となく、老弱となく、苟も女史が人格を解し、その熱誠を慕へる人の、遠きを厭はず參着せんや云ふまでもなからむ。

爰に奥村五百子女史一周忌の法要營まるる前數日、死しても尚ほ生ける女史の永き追憶にもと、特に此號を紀念號と名づけ、女史が肉筆『洗心』の文字と併せて此處に掲ぐるもの、誠に我會の私事のみにはあらずぞかし。

會告

來る二月七日午後一時淺草本願寺に於て本會首唱者故正七位奥村五百子氏一周忌法要相營み候に付き適宜參會相成度此段廣告候也

二月三日 愛國婦人會

追而當日御供物は堅く御斷申候、尚當日參會の節、本會職員の方々は同寺東門(淺草公園に面せる門內)より御出入相成度此段申添候也

本號要目

廿三億の國債を何うするか(江原素六翁)△神經質(土田醫學博士)△家庭の和樂(伊澤修二氏夫人)△青年男女の交際(鳩山春子女史)
小說平和(森志つか氏)△小說女心(堀內新泉氏)△花嫁時代の追懷(くれがし夫人)△童話耳切り兎(木村小舟氏)△紀元節(竹冷氏等)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紀元節の歌

佐々木信綱

野に山に梅咲き匂ふ皇國の
　基さだめしけふのよきひと

神倭神の命のみいさをを
　仰くもかしこうちつとひつゝ

大空も心あるらし富士の根も
　綠にはれぬけふのよき日を

大塚楠緒子

道はたに守の負ふ見もむつからて
　今日はゑみつゝ日のみはた振る

賤か住む小路小路のはてまても
　御代をことほく今日にぞありける

中山幸子

よろつよの神のをしへにもとつきて
　人のこゝろをひとつにそせむ

みあくれは雲ゐはるかにはれわたり
　千代田のみやに田鶴のこゑ〳〵

古史

紀元節梅名殘なく咲きにけり　松宇

葛城や霞み爭ふ三ッの山　無黄

住吉や松にいく代の紀元節　望東

東風吹いて氷の山の流れけり　雨六

いつの雪の殘れる里も梅の節　麥人

薤露

—故奥村五百子刀自を悼み奉りて—

神谷誠之

二月七日あめつちは
形見のいろに、鈍色に
黒き光におほはれて
行人はみなうなだれぬ。

ああその夜なり幽晤の
風戌亥さす午後八時
涅槃の城のやはらぎに
いと偉なる人は逝く。

いさち哀しみ諸天また
永久の隠れの我が刀自を
悼むとや地に數おほく
流れぬ、星は皎として。

二月十日、むらさきの
雲わき薫ゆる日の眞晝
天華ときじく降るなかを
御棺はゆく淨土の地。

薤露は微に、霖枯れたる
野にはた街に。あめつちの
目路のかぎりはうは凍みて
面影をこそ偲びしか。

ああ京の山、京の水
圍れるところ、今はさは
せめて讃へむ『その遺音
天壤のむた輝よふ』と。

—四〇、十二—

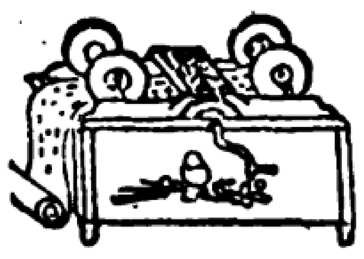
根本的美顔術

文明の力は遂ひに人の顔や手足の造作にまで干渉して來た醜婦も化學の力で美人となり得る樣になつて來た歐米では婦人美容に關する學校さへ設立せられ如何にせば容姿を美くしくすべきかに就て苦心研究して居る專門學者さへある美人國に生れながら家庭に於ける舊慣から恐ろしい鉛毒の混入した白粉や粗製の香油や質の惡い紅を以て僅かに裝容の具となし來つた日本の婦人も近來は多少自覺したと見へて遂に斯術の敎師や著書が現はるゝ樣になつた今は又た米國からポンピアンス、マッサージクリームなる一の新化粧品が輸入された。

ポンピアンス、マッサージ、クリームは今を去る十餘年前米國に發明せられ美容劑中の最優等品として聲名高く同國美顔術學校の敎授藥學博士ダブリユー、スラッセル氏が『美容に關する藥品器械も澤山あるが諸藥品の各特色を綜合的に有つて居る同クリームほど完全善良のものは無い』と激賞したもので第一の効力は色を根本的に白くする事である白粉のやうに上面ばかりを白くするのでなく心から白くするのである一日一回なり三日に一回なり先づ良い石鹼で顔を洗ひ乾き切らない中にクリームを充分に塗り思切り兩手て乾燥するまで摩擦し皮膚の中の不純物が垢の樣になつて出る程摩擦した後羊皮か絹半巾の樣な軟かなもので鄭寧に拭き取るのである然すれば白粉の樣に直ぐ塗つて直ぐ白くはならぬが十日乃至二十日間後には其の効顯著るしく豊頰白色の美人となるポンピアンス、マッサージクリームは確に我國の美容渴望者に非常の滿足を與ふるものと思ふ。

既に九重の雲深き高貴の方々を始めとし都下の華族方の令夫人令孃サンマース夫人一家一高敎授クラーク博士夫人ブランド夫人村井弦齋夫人等は同品の有効を嘆賞して居る直段は大參圓小壹圓五拾錢郵送料は十貳錢日本代理店は東京銀座一丁目のローヤル化粧料發賣元佐々木商店です。

無師獨奏　紙腔琴

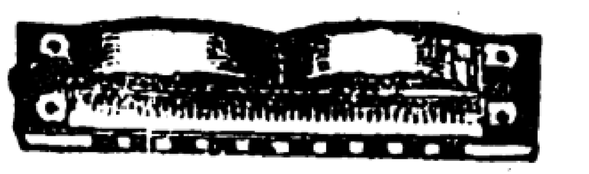


◎奏曲自在
上製金拾五圓
中製金拾　圓
小形金五　圓

舶來　手風琴

新荷着
金三圓三十錢以上
金二十圓迄

西洋ハーモニカ（横笛）



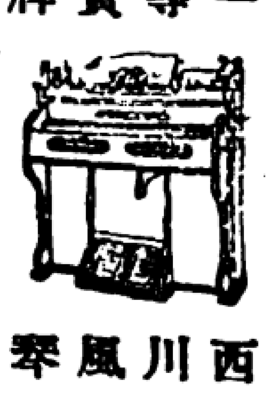
金三十五錢以上金貳圓迄

東京銀座三丁目
十字屋樂器店
電話新橋一二五九

大聲發音器

各製造會社　特約

東京博覽會　一等賞牌



西川風琴

皮膚と牛乳

牛乳が皮膚を艶美ならしむるに卓効ある事は醫學社界の定論であります

歐米の貴婦人

競ふて牛乳を洗面料に用ゐ牛乳浴をして艶々たる美しき乳の如き肌を呈して居ります

牛乳の主成分を

採り幾多の研究と學理の應用に依り製出せし乳白化粧水「レート」は牛乳の臭氣なく腐敗し易き缺點を去りたる

理想的化粧水

なれば皮膚に營養を與へ配合せる高貴の香料馥郁として自然に美艶乳白の肌となる效果偉大　畏くも

東宮妃殿下

の御用命に接したるは能く「レート」の品位物質の如何を表示すべきを以て我國上流社會に可驚歡迎を受け

白粉を用ずとも

乳白化粧水「レート」を朝夕御用ゐあれば化粧しても化粧したかせぬかわからずに美しき素顔となるべし未だ

レートを使はぬ人

●は御試用あれ定價は大瓶金五拾錢小瓶金參拾錢送料金八錢各地の文明的化粧品を販賣する店にあります
●にせものあり御買求の節は瓶の表に「乳白化粧水レート」の文字及び瓶の裏にある「發賣元平尾贊平」に御注意を願升

發賣元　東京市馬喰町一丁目　平尾贊平
同　大阪市東久寶寺町二　平尾贊平支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廿三億の國債を何うするか

江原素六

我が邦は目下二十三億圓の國債を持つて居ります。此の借金は男女老若共に、苟しくも日本國民たるものは、誰彼の差別なく之れを償却する覺悟を要するので其責任は男子のみでなく、婦人と雖も分擔すべきは勿論の事で御坐います。

日本は現今、世界の一等國だと云つて威張つて居ますが、決して然うは、高聲で申され無いと思ひます。

日本一の良港と云ふ横濱の狀況を御覧なさい。大艦が着濱しても直ぐ横着になる處か遙か遠い沖合に碇泊して、夫から艀艇で悠然と客をはこぶ、其から又客一人に車一人の割合で停車場まで、曳いて行くので御坐います。斯様な一等國は何處を探してもありません。日本はまだまだ開けないのですから、諸姉も餘程確乎して下さらねばなりません。

夫には先づ社會の根本に善良なる教育を施す事が必要で、即ち家庭の王たる婦人が自省して其品性を高く持し、次代國民たる兒童を薫陶するのが急務で御坐います。

兒童の善惡は唯單に家庭の良否を以て論ずる事は出來ないので、如何に兩親の品性が善良でも、其召使ふ下女下男が惡ければ、兒童も墮落する事があるのです。又學校などでも、一人の惡童は其教育全部に惡影響を及ぼすもので、不良少年が家庭のみならず一般の社會に害毒を流す事は實に寒心の極みで御坐います。

自分は不良少年の感化事業に從事しつつありますから、其間の消息は比較的詳しく知つて居りますが、不良少年の感化は非常に困難で、毎朝の教訓談を茶碗を叩き題目を唱へて、まぜつかへす事もあり、又挨拶の代りにべつかつこをする者もあるので、斯様な日には一同に何を訓へても好結果を奏しないので御坐います。之に反し無事に講演を終つた時は、終日極めて靜肅で、從つて成績も良好ですから、家庭に於ても又斯の如く、教育の方法如何によりては、善ともなり惡ともなるので、家庭の薫陶は一日も忽せにすることは出來ないので御坐います。自分の氣付いた事を二つ三つ申せば、先づ第一に兒童の居る前で、不眞面目なる言語を愼む事で御坐います。些細のやうですが結果は意外に大なるものであります。例へば、自分の友人の細君が病氣で入院して居たとき、見舞に參ると某實業家の奧様が可愛らしい六七歳の娘子を連れたのと、一緒になりました。て其娘子は度々參るので克く心得て居ると見えて、自分を病人の居室に導いて呉れましたが、話の切れ間に其お孃さんは「伯父さん此伯母さんの看護婦は大層欲が深くて、お金をやらねば働きませんと申しました。丁度其席に其看護婦が居たので御坐います。兒童は遠慮會釋なく聞いた事を話すもので御坐います。之と反對に、美しい御話は昔後水尾帝の頃、風紀頗る紊れて、草賊が晝夜を分たず徘徊いたしました。或る夜草賊はいと貧しき農家に到り、何か竊まんとして内を窺ふと、少女が病みたる母の爲に粥を煮て居りました。やがて箸て飯粒を鍋蓋の上にのせ、箸て押して見てあまだ少し硬いと云ひつゝ、鍋に蓋を致しました。草賊はかゝる貧しき生活をしながら、其働作の如何にも優美なるに感じ、斯様の者の財を盜むは天罰恐ろしいと云うて去つたと云ふ事であります。亦ある教育あり才力ある婦人が歐洲留學より歸朝せし學者に媒介する者があつて、大略其相談が纏らんと致しましたが、或時不圖下谷區の漬物屋の店にて、未來の花嫁花聟と出合ひました。其ハイカラ美人は漬物屋にて見本に出した種々の漬物を、指先て嘗めました。其風體が何となく下品に見えたので遂に破談となりました。其媒酌人が自分に申しましたには、漬物屋の見世て少しばかり味噌を嘗めて遂に大味噌をつけたと歎息されました。

聖書箴言の卷に、美しき女の愼みなきは金の輪の豚の鼻に懸けて有るが如し。と云ふ事があります。

如何に華美なる風采を飾りましても、物質上の智能に長じて居りましても其人品性の修養がなければ、稍ともすると下劣の行動を現して、金の輪の豚の鼻に懸けてある如き、嫌惡の感を與ふるもので御坐います。

故に如何なる場合にも、家庭の王たる婦人は、其天職に自負せられて、常に言語擧動を愼む事が誠に大切で御坐います。

然うすれば婦人の善良なる感化は、單に家庭なる兒童の上ばかりで無く、社會一般に好影響を與へて、二十三億圓の負債も幾年ならずして償却する事が出來ると存じます。

(記者曰。別項にも云へる如く婦人農商會の席上にて演說せられしものゝ概要なれば、文責の記者に在る事は勿論なり。尚ほ全會に就ては詳細に紹介する筈なりしが、記事輻湊の爲め後日に讓りぬ)

當代百畫選(一)

米國女子の職業

佐藤迷羊

△賢妻賢母　女子の最大最高の目的は良き妻となり賢き母となるにあるは誰れても知つて居ます。特別の場合を除いては、女は早晩人の奧様となり母様とならなければなりませぬ。此事は女の當然の義務であつて且つ貴むべき權利であります。古今東西の別はありませんから此點は米國も日本も同様であります。一家の奧様のなさる事は形は違つても子供を養育したり一家を整理したりする點に於ては同じことで御座ります。それで此前のお話は重に結婚したる米國の奧様のお話をいたしましたが今回は重に

△結婚前の米國女子　について申上げます。米國の婦人は好く働きます殊に中流以下のお嫁入り前の女は男子も及ばぬ程に働きます。私は米國に居ります時分に菓物の鑵詰會社に關係した事がありましたが毎年夏の七月から九月一杯には大概八百人位の女が働きに來ました。會社の女工といふと深川邊の紡績會社の女工を聯想しますが、そんな下等なものてありません。八百人の婦人中三分の二以上は、大學校、高等學校、師範學校若しくは小中學校の上級生であつて其身分も上等社會のお孃様が半分以上を占めて居ました。日本では中流以上の令孃が工女となるといふことは殆んど想像にも及びませんが職業の神聖を信ずる米國では働くといふことは人間の義務のやうになつて、怠けて居ることこそ恥ちとします。それて此等のお孃様方が、平生は學校に行つて居ますが、夏休みになると會社に働きに來ます。時とすると日に十四五時間も會社に居て、十幾圓といふお金を取ることもあります。斯くして得たお金は着物なり慈善費なりに費します。

社告

□當代百畫選□

我社にては今回當代の巨匠として、名聲ある百名の畫伯に依賴し、夫が苦心の傑作を得隨時掲げて誌上を飾り、永く愛讀諸姉をして本誌と共に珍藏せしめむとし、本號既に第一着手として青年畫伯倉田白羊氏の近製『好伴侶』を掲げたり。若夫れ今後陸續として連載せらるゝに至らば、諸姉は坐ながらにして天下の名匠を一堂に會する慰あるべく、即ち既に承諾を得たる諸畫仙の芳名を擧ぐれば左の如し。

梶田半古氏　宮川春汀氏
木村光太郎氏　平福百穗氏
渡邊審也氏　尾竹國觀氏
尾竹竹坡氏　一條成美氏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭の和樂

△はしがき　　さなしか

公事の爲めに敢えて私事を辭すと、東奔西走、席暖かなるを知らざる婦人も世にはあり。我が愛國婦人會の主唱者奥村五百子刀自の如き、近頃にては、その主なるものなり。奥村刀自の群小婦人に傑出せる天晴の女丈夫なることは、こと〳〵しく、爰に云ふまでもなし。さはれ、刀自を以て理想とすべき一家の主婦と云はゞ誰れしも、直ちに僻事とて否定さるべきは論なきこと。さらば、一家に主婦たる人は、決して公事に身を献ぐべからざるか。公事の爲めに奔走する一家の主婦は、遂に家庭の和樂を保つの餘裕なかるべきか。問題は即ち、そのことなり。『家庭の和樂』なる一欄を設け、世に時めく、名流の婦人を歷訪して、その意見を叩くべく企てたるも、即ちそれが爲ぞかし。

世には公事の爲めに、主婦ものかはと、一家の萬事を投げ遣りにし、老ひたる家族をして眉の皺み絶ゆる間なからしむる、不埒千萬の主婦もあり。世には、それを褒めたゝふる勘違への藪睨みも尠なからず。世には又た、公事の爲めを、あは宜き云ひ拔けにして、我儘勝手の公事呼ばはりする婦人も多くの裡には莫きにしもあらず。かく云ひたればとて、かゝる勘違への人々、そんじよ此處等にありとは云はざれど、萬一にも——若しや、萬々一にも、かゝる勘違への人、そんじよ此處等にあるならば、お氣の毒とても云つて置くべし、此の記事を御自省の、新たに御發心の材料にせられかしと申し置くべし。

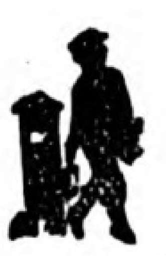
更にまた、廣き世の中には、公事どころか主婦とも呼ばるゝ身にしありながら、一家の和樂は未矣のこと、御自身の身じんまく、良人のお世話は勿論、老ひたる家族、稚き家族の世話までも疎略出來ずに、空しく尊められつる名のみの主婦もあり。更に〳〵お氣の毒なは、一家大事、老人大事、所天大事、子供大事と、おのが身をつめ、根をつめ、唯管家庭の爲めにと、夜も日も分かず骨を折れど、いかなる運の廻り合はせか、一向に老人、所天の氣に入らざる、悲しき月日の下に生れつる主婦の、時には世間にあることとなり。その身、賢母、良妻たる立派な資格、性格、氣質の人にてありながら、所天の不埒を如何ともせんやらなく、口惜しき月日を送らるゝ主婦も、廣き世間には、間々ありしと聞く。かゝるお氣の毒な月日を送らるゝ主婦の人、我が愛敬する、愛讀者諸姉の裡に、萬一にもあらば、此の『家庭の和樂』の記事の、順次掲げらるゝうちに、斯う云ふ方々の心なぐさとなる節もありぬべし。

扨て然らば、いの一番に訪問せし伊澤修二氏夫人ちせ子刀自は、この點に關して、いかなる事をば物語られしぞ。それを紹介するが、本號の目的なりしも、いかにせん、記事いと輻湊せるまゝ、次號のお樂みと、今度だけは、豫告に叛く。諸姉妹乞ふあしからず、思し召してよ。

しのぶくさ(上)

愛國婦人會幹事　伏島たき子

あゝ祖母君はうせたまへり。齡七十三を一期として歸らぬ旅にいで立たれける。あはれ來む七十七の年賀には、かにかくと祝ひ參らせん事の數々をさへうち〳〵心がまへして樂しかるべきその折を、まちつるものを今となりては甲斐こそなけれ。抑此の祖母君はいかなる故由ありにしか、悉しうはえ知らねど、わが里より路の程一里ばかり距れる隣村に、はやくより己らが家族と居を別にせられ、養子女をむかへ、養孫さへさはにもちたまへりしなれど、幼き折に母に別れ、幾多のうきがなかに成長したるをあはれまれてか、萬にふつゝかなる己を、わきてもいつくしまれしなり。實にやこれ、諺にもあるやうに、おろかなる子程かはゆしとは、かゝるをこそはいふならめ。されば今ははや齡三そぢにもなりにたる、この己をみたまふ毎に、いつも五つ六つの幼子を呼ぶ如く、この子は〳〵とのみのたまひしにても、なみ〳〵ならぬ慈愛のほど、おしはかられて戀しきに、今はこのなつかしき祖母君に、再び逢ひ參らせんよしもなし。思ひ出れば去年の秋紅葉もちりて菊もやゝうつろひそめにし頃なりき、ふと風めしたまひしは。はじめのうちはたゞかりそめのみつゝがならんと、われも人も思ひしかど、これ世に不治の難症なりときく、胃癌の初期にぞありけるよ。かくて日をふるまゝに、食氣すゝませられず、去年の睦月頃より、いよ〳〵御病重り來て、つひに去月の秋長月十一日夜に、はかなくも亡せたまへるなり。あはれ思ふも悲しく、いとつらけれど、偲草にもなりなましと、すぎにし病中の事どもを、一つ二つかいつけん。とてもかくてもおこたるべきみやまひならねど、いかで一日もながくこの世におはせよかしと、神にいのり、佛に願ひながらも家もてる身の思のまゝにもさぶらひがたく日をすごせば、君が方より來よとの御使あり、何事にかと胸まづさわがれ、走せ行けばこれといひての、みものがたりもなくて、たゞ身をいとへよ。春蠶はさのみならねど、秋蠶はいたく身のつかれをおぼゆるものなれば、さはになかひそ、夏のうちの身のつかれは、冬になりて出てぬべし、心せよ。それものほしからずや、これたふべよと、み枕べのくだものをも手づからとりてあたへられ、食事の折なども、わが目の前にてものせよ、さはにたふべよ、これや好めるかれやよきと、もゆるが如き慈愛のかず〳〵、うれしといはんよりもなか〳〵に悲しうて、あはれ、やむ人にこそ、いさゝかなりとも味よきもの參らせめと、おもふはなべての人の人の心ならましを、いたづらにわが腹をこやして何かせんと、箸とる手もうちふるはれど、これも孝養の片はしにやなりなんと、涙を呑みていはるゝまゝにものしつるもめづらしからざりき。



圖書クラブ

さらぬだに、いと狹き誌上に、記事と廣告とが大さう輻輳した爲めに、この『圖書クラブ』も、明くれば去年の歳末に一度掲げたのみで、遂本號まで、それなりけりに成つたのは、寔に何とも申譯のない次第である。

豫定通りであると福來博士の『心理學講義』を紹介する筈ではあるが、我が愛國婦人會の評議員、近頃鳩山法學博士夫人春子女史の『婦人の修養』と云ふ、いと頭稱なる好著述が、大日本女學會から發行されたから善は急げ、と、福來博士のは次のことゝして、今回は此の好著述を御紹介することゝする。好著述と云へば此の間(先月十七日)愛國婦人會役員の新年讌會が、九段の階行社で開かれた時、その餘興に福引があつた。その福引のうちに、『細川家の二忠臣』といふのがあつて、その心は「伊井、本多」(好い本だ)と解かれて大喝采を拍したのであつたが、その時、好い本だとして福引の品になつたのは此の好著述であつた。

閑話休題、此處に御紹介するのは『婦人の修養』中第九章に掲げられてある『青年男女の交際』と云ふ一節であります。序でに申し上げて置くが本書には交際の必要、交際と禮法、交際の秘訣、訪問の禮儀、談話の心得、食事の作法、衣服の注意、書翰文例等いづれも、婦人の修養上缺くべからざる箇條が悉く網羅されて居ります。猶ほ悉しくは本誌前號に廣告して御座いますから、それを御覽ください。(係記者)

青年男女の交際

愛國婦人會評議員　鳩山春子

目下の我國は過渡の時代とはいひながら、古來の習慣にもなく、さりとて西洋にも行はれざる、奇怪なる、突飛なる事を爲し、得々たる人の隨分少からざるは慨歎すべき事といふべし。其最も甚しきは、青年男女の交際なり。

西洋の交際

西洋にては、女子が男子を訪問することは(五十以上の老婦人は例外として)殆ど無く殊に若き娘が男子を訪問するなどは、絶無の事なり。青年男子が、友人の宅などにて青年女子に紹介されし時、其女子に向ひて、御身を訪問しても差支なきかと問へば、娘は、自分に其訪問を受くとは云はずして、我が母(又は父)は必ず御身に御面會する事を喜ぶならんと答ふる也。而して、男子は直接に娘を訪はず、其母又は監督者に對して名刺を出し、母又は監督者は娘と共に客室に出て、面接す。

斯る折娘は特別に氣を揉む樣子を爲し、又は非常の興味を感ずる如き態を表はさず、愼み深く注意するを要す。控へ目といふ事は、良き躾の緊要なる部分なりと知るべし。

總て女子は學校に在る間は、女子同志互に自由にして隔てなけれど、學校を卒ふると共に、短き着物を廢し、下げたる髮を止め言語擧動も丁寧に、愼み深くなる事に意を傾くるものなり。斯る西洋の風習を心得ず

似而非西洋風

濫に西洋風、西洋風とて突飛にも、青年女子より男子に手紙を送り、訪問して交際を求むるなど、近來往々見受くる所なるが、驚くべき事なり。

又

身分よき家庭の若き娘が、監督者なしに、娘同志のみにて旅行するなどいふ事も、西洋には決して聞き及ばざるなり。殊に驚くべきは、自由結婚なりとて、女子より男子に結婚を申込む等の事ある由なるが、これは恐く全世界に類なき極端なる突飛の擧と評するより外なし。

獨身者の禮儀

次に掲ぐる問答は、歐羅巴の娘が世の嫌疑を避くる爲いかに窮屈なる思ひをせるかの一端を説明して餘りあるべし。

或娘、獨身者の禮儀に就き問ひて曰く

一、身分は今三十五歳にして、父の家に於て主婦の地位にあり、結婚する意は有せざるが、尚監督者の必要ありや。

二、監督者なしに畫師の室に入りて肖像を畫かしめ得るか。

三、演劇等の切符代を男子が拂はんと云ふを許す能はざるか。之を約言せば、社會に於て既婚婦人の義務だけを負ひ而して其自由を樂しむ能はざるかとの意なり。

第一問の答　廿五歳以後は監督の問題減少すべし。さりながら獨身者は、社會の誘惑に就て明確なる判斷力を有せざる可からず。又、自分の擧動に於ても成るべく

威嚴的容儀

老成的容儀を裝ふを要す。婦人は年齡の進むに從ひ、威嚴の加はるものにして、こは確かに盛色の過ぐるを償ふものなり。(下略)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

平和（上）

森しつか

冬の關所、大寒が明けてから、今日で恰度三日目である。數日前とは打つて變つた今日の和暢さ！　永遠に變らぬ自然の法則を季節に見せて、春は今ぞと、煦々と暖き日映。その日映は南向きの椽の半面に映し込んで居る。時刻は恰度、午前の十時。

「何事を致て居るんだらうね、眞箇に。私の心も知らないて。」

と、獨語の主は、總禿頭の頭の生地を、僅かに殘れる白髮混りの頭髮て、散髮に撫て付けた、七十歳有餘の老婆てある。老婆は撫て付けた白髮の間から現然と見え透く禿髮頭に、和暢な暖かな日の光を受けながら、裕寛然と長羅苧の煙管て煙草を爇らして居る。

爇らし終つた煙管の雁首を自暴然に、側の火鉢の縁て敲き終ると

「小夜や！　小夜、小夜、小夜!!」

と、皺のある、皺嗄れた聲のあらん限ど勢急に呼ばはつた。

呼び終つて、待つこと、三分、四分。もの丶五分ばかり、默つて返事を待てる樣子であつたが、應とも否とも返事が無かつた。見る／＼斑な眉毛は皺められ、落窪んだ、底光りのする雙眼が險しくなつて來たと思ふと、

「小夜や、小夜、小夜！　小夜は居らんかい。」

と、奔流の如く、再び皺嗄れ聲が、精も根も盡き果てたかと思はる丶程皺びた力なげの唇から、溢れ出てた。

「唯々」

漸とのこと、幾間をか隔てた彼方から、微かに返事の聲が聞えた。と、思ふとばた／＼と小股走りの女の足音！　それが漸々近寄つて來る。老人の一轍、それも待遠しさうに

「眞箇に、何をして居るんだらう。お喜美はお喜美て、十時に歸つて出て行つたのに、未だに歸つては來ず。いくら暖かいと云つた處で、やう／＼節分が過ぎた巳矣。泰代に寒冒でも引かせたら何するのだらう。眞箇に現今の女は氣樂だよ」

と、云ひ／＼また一喫吸ひ付けた。

その時、この六疊の室の堺の襖を啓けて、姿を現はしたのは、十八九の、色白の小肥りな女性。敷居際に跪きながら

「御隱居さま、何か御用て」

と・唯つた今除したらしき襷を右の手て手弄つて居る。

御隱居さまの雙眼は、その險しさが、未だ癒らない。

「先刻から散々呼んで居るのに、聞えさうなもんぢや無いか。」

「唯々」

「唯々も無いもんだ。奧さんが留守だと思ふと、空耳ばかり走らせて居て」

「否、あの……」

「否えさ、あのも此のもありは致ないよえ、小夜」

「唯々」

「奧さんがお留守だと思つたら、今少し氣を付けて貰ひましやうよ。」

「唯々。誠に申譯が御座いません」

「ふむ。申譯が無いと思つたら、以後から、少し氣を付けるが宜しいよ」

と御隱居さまは又た一喫。和暢に消え行く煙の行衛と小夜の面とを暫時御隱居さまは等分に瞪つて居たが、頓て

「奧さんは最早歸さうなものだのに喃」

「左樣て御坐いますね、唯今お幾時て御坐いましやうか不知」

と、振向いて床の間の置時計を見ると、恰度十時二十分過ぎ。

「時間が時間て御坐いますから、最早程なく御歸邸て御坐いましやう」

と、小夜は切りに取成し振り。

「妾も左樣は思つて居るがの……。年齡は取るまいもの、何うも兎角性急にばかりなつての。それに、那の病身の泰代を伴れて行つたのだから、妾も氣が氣て無いので喃」

と、御隱居さまの御機嫌は、だん／＼癒つて來る。險しい雙眼も次第平素に復して來る、有るとしも無き風の戰ぎに、梅が香がぷん／＼と薰つて來る。煙草を輪に爇らして居た御隱居さまは

「好い香だの—」

と、高からぬ鼻を動めかす。

「左樣て御坐います。昨日まて一輪、二輪と思つて居りましたのに、まあ、御隱居さま御覽遊ばせ。あの早咲は那樣に最早咲きまして御坐います」

と、小夜は日映好き庭の、東の隅を指さす。

「眞に喃—」

「此の鹽梅ては、紀元節あたりには、最早百花園も見頃て御坐いましやう」

「左樣さ喃。だがの、妾のやうに年取つては、梅見よりも、自家に居て泰代の笑ひ顏でも見て居る方がの……」

と、云ひさして、また一喫。

「それは左樣と、お喜美は最早歸りさうなもんだが」

と、御隱居さまの言葉、終るか終らぬに軋轢／＼と門內に俥を挽き込む音が遙かに聞えた。

すると、御隱居さまも小夜も殆ど同時に諸聲に——

「歸つたやうだの」

「お歸りて御坐います」

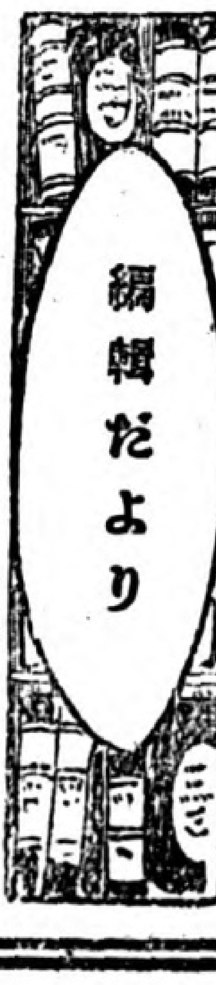
許六春の句

灸の點干ぬ間も寒し春の風
買立の足駄のたけや春の雪
掃ためを捨かけておく春の雪
四條から五條のはしや朧月
陽炎や破風の兎の如意寶珠
陽炎の中や手鞠の土ほこり
陽炎や壁のぬれたる夜の雨
陽炎や我より先に我の影
伊勢は照る馬士の鈴鹿や花曇
春雨やはなれ／＼の金屏風
逢坂や牛の骨折る春の雨
けふ限り春の行方や帆かけ船
くはら／＼と猫の上や梅の花
梅が香や屋根に干したる酒袋
根は桃に枝の接木や梅の花
化粧する鏡の中や梅の花

婦人百科辭彙

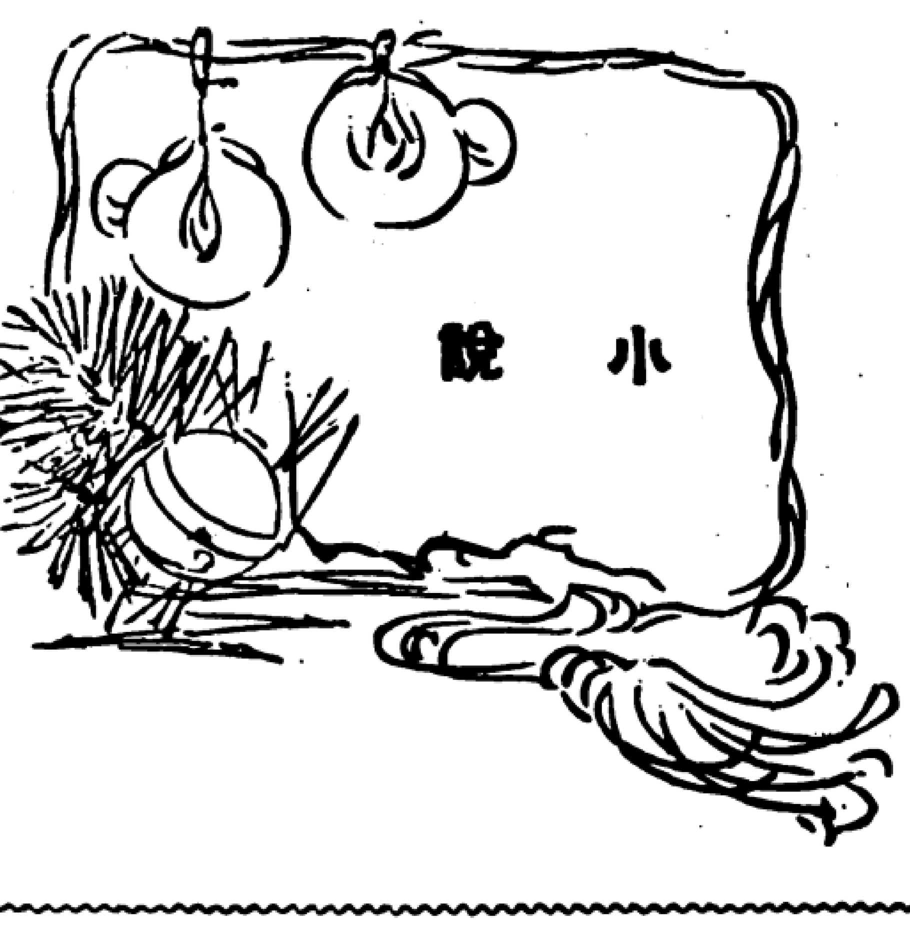
△味噌　味噌の原料は大豆と水と食鹽とを主とす。他に麥麴若しくは米麴を加ふることあり。その製法は、先づ大豆を能く蒸して麴とし、水と食鹽とを入れ、半切桶の中に好く混ぜ合せ、且つよく碎きて、桶の中に仕込むなり。仕込みてより熟成する迄の時日は味噌の種類により異る。即ち長きは二年以上、短きは一晝夜にて製す。その種類の主なるものを擧ぐれば、白味噌、一夜味噌、玉味噌、中味噌、金山寺味噌、麥味噌、小金味噌、名古屋味噌、備前味噌、三州味噌、相州味噌、さくら味噌、鰤味噌、鯛味噌、等なり。

△惠比須神　「えびす」或は「えみす」和書に所謂惠比須、惠比壽、惠美酒、夷子は微笑を意味する國語「えみ」若しくは「えび」に語源を發するや明かなり何人も知らるゝ如く、惠比須は其體福々しく肥え、その面には常に微笑を湛え、且つ漁家に緣深き神なり世には蛭子と惠比須とを混同せるもの多けれども、本來は相異れり。蛭子を祀れる社諸在にあれど、福神としての惠比須は、殆んど家毎の神棚に祭られ每年十月廿日には惠比須講又は惠比須祭ありて、商家などにては盛宴を張り祝意を表するが例となれり。



□今日より一週間目が恰度紀元節に御座候、少し早けれど、本誌本號は其の芽出度き日柄を紀念せんとて、特に一部を、それに當てたることに候□社告欄にも揭げ置きし通り、本誌は今後月は一月と大々的發展を致し、全國百萬の愛讀者を得ては止まぬの覺悟に御座候それには愛讀者諸姉の有力なる後援を得ては、如何にともする能はざる處に候、さるが故に此の際一層諸姉が深厚なる同情を願ひ置き候□昨年後半期、編輯局員不足なりし爲め、懸賞々品の久しく不發のまゝに相成り居候ふは、諸姉に對して、何とも申譯なく、且つ慚愧の至りに御座候、依て先月末を以て悉く發送し終り候、尚ほ今後は、その都度／＼間違なく賞品贈呈致すべければ、倍舊應募の程希ひ候□懸賞と申せば、本紙新體詩更に奮はず、今後は盛んに歡迎致すべく候へば、奮つて御投稿祈り候□編輯日記は今號にも揭ぐる意に御座候ところ、同じやうのことのみ揭ぐるも更つていかゞと、今後は何か必要のことある時にのみ揭ぐることに致し候、右御諒知相成りたく候□竹內薫笛子の投ぜられし歌劇『淸少納言』は本號揭載いたし候、尚ほ斯玉森田竹子姉の小說も近日揭載いたすべく候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女心(下)

堀内新泉

紙と硯箱とを突き附けられた御亭主は萎れかへり、

「ア、、私も男だ!それ程までにお前に嫌はれ、敢て未練を殘すぢや無いが、まだ乳が無くては立たぬ、その子の朝夕が思ひやられる!私はまだ赤坊の時に母を亡ひ、その身幼にして母の無い子は、何んなに辛いものだかと云ふ味ひを未だに善く覺えて居る!この兒さへ無ければ最う疾くに、實は私の方から早く御免を蒙つて居たのだが……」

「オホヽヽ、聞いて呆れらア、此方で御免だア、何んの事だらう?貴下を見たやうな鈍間にても、世は進退があるんだから可笑しくなつちまふ!この節はね、貴下のお育ちなすつた時分とは違つて、ミルクと云ふ調法なものがありますから、おッ母さんは傍に附いて居なくつても、お金さへありやア小兒は幾人でも育ちますよ、ほんとうに強腹な!」

「イヤ、金さへ出せば、ミルクもあれば、またミルクフードなど云ふ調法なものもあらう、併し、善く聞け、ミルクやミルクフードは金で幾何も買はれるが、母の慈悲は金では買へぬぞ!」

御亭主は腕を抱き、

「ア、、乃公一人て無い!世界に於ける何人も、可愛我が兒が無かつたならば、心に生血は流しはすまい!男が人に頭を低げるも約りはこれ故、ア、、成程、子は三界の首枷だわい!」

御亭主は身を悶え、

「最う何んにも言はん、乃公が惡かつた!併し、此處は善く聞分けてくれ!お前も一旦縁あつて私に連添つたあおちや無いか、現在の我が可愛妻子に、それ程愛想を盡されるまで、或る一面に於いては深見作太郎は、我が天職に向づて一身を、已に幾年間と云ふ久しい間犧牲に供して遣つて居たのだ!お前と連添つてから、今年で早モウ五年になるが、その五年の間たゞの一夜でも、雞の聲を聞かずに私が枕に就いた事があるか、是も怠けて居てばかりの貧乏ならばイザ知らず、少しは己の苦心も推量してくれるが女房の役目ぢやア無いか。成程女としては、乃公の面が馬鹿にも見えるだらう!乃公は意地氣無しにも見えるだらう!併し、乃公はこの通り、正月が來ても、伸餅一枚搗けぬ程貧乏はして居るが、我が天職に向つて盡すと云ふ精神に於いては、世界の何人にも讓らぬ積りだ!乃公は神だ!神さまだ!!!少し目前の利く女なら、貧乏位の事が何んだ!ア、、私は好い亭主を有つた!と拜んで居つても丁度好い——」

「オホヽヽ、この人はまあ到頭狂人に成つちまつたよ。自分の事を神さまだとさ……、聞いて呆れらア、オホヽヽ、神さまなら貧乏神だらう!」

「オヽ、お前は貧乏神だ!男子が一度貧乏神に見入られずに福の神に成れると思ふか。世の有名な大發明家の前身を尋ねて見ろ、皆貧乏神で無い者は一人も無いぞ!乃公は即ちその福の神の前身だ!!!」

「いよ〳〵、之はキ印だ!先ア何んでも可いから、早く去状を書いて下さいよウ」

「イヤ、母親が變つては、乃公も覺えがある、この兒が可哀さうだ!お前も今まで辛抱したものだ、切て最う一夜、この兒ヶ睡に抱いて寐て年を取らせて遣つてくれ!拜む!拜む!この通りだ!」

「何んと云つても可厭ですよウ、さあ、早くさッさとお書きなさいよウ」

「これ程云つても分らぬか、ア、、是非に及ばん、ぢやア書かう!」

サラ〳〵書いて調印し、くわッと怒つて叩き附け、

「さあ、大切に、この去状を落さぬやうに持つて行け!」

云ひも終らずツット寄り、我が子を奪つて確乎と抱く。

「ア、、これで厄拂、氣が生々した!」

と喜んで、袖を振つて表に一歩、同時に

向ふから一輌の車が宙宇を飛んで來た。見れば主人の親友だ!客は車上に兩手を開き、

「深見居るか、萬歳!」

その聲聞いて、兒を抱いた儘主人は現はれ、

「オ、谷島か、待つて居つた!」

「占めた!」

ひたりと車を飛んで下り、

「君の發明品は、今日愈々例の紡績會社で採用する事に成つたぞ!何うも機械の精巧なのに重役連中舌を卷き、今一同此處に打伴れて遣つて來る筈だ!」

「オイ、まあ家に入つて話せ!」

「まあ聞け、一同大いに君が多年の苦心に敬意と同情とを表して、無論、これは契約以外だが、取敢ず、ハヽ、今此處に三千兩丈御歳暮が遣つて來るぞ!」

「やあ、それは何うも辱ない!」

「その上君は來年から、月に貳百兩の月給と云ふ譯て、彼の大會社の技師長さんさ!ハヽ、何うだ、大いにおごるだらうな!」

「勿論だ!まあ入れ!」●

去られた人は腰を脱し、打つて變つてニコ〳〵もの!。

「何うも谷島さん、色々御苦勞さまでした!さあ、何うぞ、まあお入り下さい!」

「やあ、これは深見氏の御令閨!待てば甘露ぢや、ねえ!」

「ほんとに左樣でございますよ」

「さあ、まあ奥さん、貴女何うかお先にお入りなさい!」

「ぢやア、お先に御免下さいまし!」

入らんとすれば主人は飛び下り突出して、

「成らぬ!谷島、これは最う乃公の女房ぢや無いぞ!!!」

(完)

△光榮を荷ひし奥田大和刀自

本年御歌會に於て數ある詠進歌中預選の光榮を荷ひし名古屋市舍人町奥田基雄氏母堂大和刀自は實に過る三十七年以來、七十三歳の老躯を以て、我が愛國婦人會名古屋支部幹事として、切りに奮勵せられつゝある人なることは、既に洽く人の知れる處なるが、その預選の光榮を荷ひし歌は次の如し

神路山年こもりして大前の松に朝日をあふぎつるかな

歌劇 清少納言(上)

竹内蘆笛

人物　清少納言　侍女甲、乙、他に合唱

合唱
白銀の
香をよ　夢むや、冬の宮
女神か降らす　吹雪して
きらゝに殘る一夜さよ
くしきは天の、こゝろなり
森の松さへ、九重の
園とや雪の照り榮へて

清
詩歌をも　偲ぶ　今朝の雪
げに美しや
御園生の姿——

合唱
神の息吹は　白妙の
深きに閉ぢて　霑ひぬ
白き實冠の　瓔珞は
美鈴の緒にあれ　さゝやきて
殿には　昨宵の　空焚きも
香こそ　薄らめ
大慈惠——

侍女甲
(みそなはせ
あれ　みそなはせ
渡殿を
御歌使の　まゐる樣——

侍女甲
白雪は　落華とも降りかゝり

侍女乙
まんじ巴に　あふられし
衣は、舞ひに　濡れなまし)

合唱
あかつきの
夢さへ　長き　よな〳〵を
灯にぞ　艶なる　舞姫さへも
大天地の　彩肌に
嘆くとも覺ゆ——靜かなる
げに　美しや　今朝の雪
げに　美しや　今朝の雪——

侍女甲、乙
野べも　山べも　おしなへて
雲井の宮の　高樓も

清
「淸さを散らす
かぐはしさ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

男子の盛んに實用せる文明のトイレット!!!

將校及び高等官を始め東京紳士は擧て舶來石鹼より優るクラブ洗粉を以て最良の洗面料なりと賞用せられ海軍將校の水交社及び三越吳服店等を始め信用ある化粧品店にては男子の實用品としてクラブ洗粉の賣行頗る增加しつゝあり

華族夫人と七百家の家庭に於る化粧品

某侯爵と伯爵兩家の令夫人は最も大切なる婦人の素顏を美しくするには新しき空氣と共に効用著しき日本第一のクラブ洗粉を石鹼よりも良品なりと同族間に弘く紹介を給はりしが今や七百有餘の公侯伯子男の家庭は殆んどクラブ洗粉の愛用者にして三越吳服店に於ける御用常に頻々たり

尊き家庭

宮妃殿下を始め各貴族の御家庭に於ても目下クラブ洗粉の御用盛んにして此の上納品は東京銀座佐々木氏の手を經て每月仰付られつゝあり

宮中の御化粧品と女官

宮中の女官の方々を始め東宮御所の女官皇孫御殿の女官の方々は日常御身を清めさせらるゝにクラブ洗粉を以て尤も適品なりと賞せられ昨年四月廿六日第一回の御用を三越吳服店へ賜はり其後今日迄の御用數十回に及ぶ

住友家及藤田家兩家庭

日本の大富豪として有名なる住友家を始め藤田家の家庭に於ても昨年以來日本第一のクラブ洗粉を實用品として日常愛用せられ大阪高島屋吳服店は其御用に應じつゝあり

兩大將の令夫人と其家庭

有名なる東鄕大將閣下の令夫人及び黑木大將閣下の令夫人並に令孃の君は卅九年八月頃より熱心なるクラブ洗粉の愛用家にして其の重き賞讚は貴婦人間にクラブ洗粉の大流行を現はす所以となれり

岩崎男爵家の御用

淺野侯爵家を始め日本の大富豪として有名なる岩崎男爵家の家庭に於ても亦有名なるクラブ洗粉を實用せられ本鄕兼康商店の手を經て常にクラブ洗粉の御用頻々たり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供倶楽部

耳きり兎

木村小舟

鶴の首や馬の顔と一所に、長いので名高いのは兎の耳であります、皆様も御承知の通り、この兎と云ふ獸は、耳の長い割合に、尾は至つて短かく、有るか無いか判らない位です。

こゝに或る山の麓に、一疋の兎が棲んで居りまして、夜になると、近所の畠へ出て參り、麥の芽や菜の葉などを遠慮なく食ひ荒しますので、百姓は大きに困り、どうかして此惡戯兎を退治したいものだと思つて。時々畑へ出かけますが、兎は例の長い耳で、百姓の足音をよく聞き分けますので、百姓が畠へ行く迄には、兎の方で逃げて仕舞ひますから、どうしても退治することが出來ません。

すると或日の事です、百姓は途中で例の兎に逢ひましたが、兎の内心には暗い所が御座いますので、急いで遁げ樣としますと、百姓は言葉を優しくして。

〔百〕もし〳〵兎さん、私は決して怖いものではないから其樣に急いで遁げなくてもよいぢやないか、夫れにお前さんはいつも私の畠の芋や大根を採つて食ふ癖に、さうとは餘りひどいぢやないか」と呼び止めますと、兎も成る程と感心し、短かい手で頭をポリ〳〵掻きながら百姓の前へ來てヒヨコ〳〵お辭儀をして、

〔兎〕お百姓さん、どうも誠に申譯が御座いません、實は私も山に居て草を食べて居りやア宜敷う御座いますが、實はツイ何で御座います、山では兎角思ふ樣な食物も御座いませんので、こツそりお宅の畠を荒した樣な譯で、以後は乾度氣を付けます程に、今度の所は何分ともお見遁しを願ひます」と兎は泣きたさうな顔をして頼みます、すると百姓は何と思つたか、アハヽヽヽと大聲に笑ひながら、

〔百〕イヤ他の人ぢやアない、兎さんの仕たことだもの、私ア怒りたくも怒りやしない、だがこれからは氣を付けるがよい」

〔兎〕乾度氣を付けます」

〔百〕乾度氣を付けるとあれば、何か證據がなくちやならぬが」

〔兎〕さア其證據は、相惡く何も持つて居りません」

〔百〕おやア私が所望の者を呉れるか」

〔兎〕貴方が御所望のもの、ハテ夫れは何で御座いますか」と兎は不思議さうな顔付して、じッと百姓の顔を見詰めますと、百姓は例の如く、ニコ〳〵しながら

〔百〕何別のものぢやアない、これを預るとしやう」と突然手を延ばして、兎の大切にして居る二つの耳を、付根から切り取りますと、兎は乾驚仰天して、クス〳〵泣きながら、急いで山奧深く逃げて行きました

百姓は首尾よく兎をこらし、もうこれならば二度と再び畑へ出る樣なことは無からうと、安心して居りましたが、或日不圖畑へ出て見ますと、又もや折角の麥の芽が、跡方もなく食ひつくして有ります。さてはあの耳切り兎が、まだこりないで、出て來るのかと、或る日の朝早く夜の明方に、例の畑へ出て見ますと、あの耳切り兎は、頭に繃帶をしながら、充分に麥の葉を食べたとみえて、お腹を布袋の如くに膨らせて、前後も知らずグウ〳〵寢て居るのです。これを見付けた百姓は、もう默つては居りません。

〔百〕己れ圖々しい横着者め、耳を切られたのに猶こりないで、人の畑を荒すとは何事だ、さア尋常に降參せよ」と百姓は火の樣になつて怒り、驚いて遁げやうとする兎の眉間を蹴飛ばして、とう〳〵退治て仕舞ひましたとさ（めでたし〳〵）

閻魔大王の御使者（上）

末摘花

遠い夢の樣な大昔の事で御座います。常陸の國小松原と云ふ、可なり賑やかな町に、一人の老翁が住んで居ました。卜ひが上手で、御前は長命をする、お前は來年死ぬ、お前は病氣になる抔と云ふて、其他運氣縁談待人人相家相夢見判斷と、方位吉凶、凡て適中るので大評判で御座いました。ですから別に生活の苦勞も無く、晝の内は大道で卜筮をし、夜になると御寺に泊つて、年を送り月を迎へて、悠々と暮して居ました。

すると或年の秋の夕暮、濕り氣の無い木枯に、かさこそと音立て、乾反葉が亂れ舞ひ飛ぶ、御寺の森とした玄關に、一人の旅山伏が參りました。體軀は痩せて黄み衰へ、顏は黒光りに煤け、見るから薄氣味惡い容態をして老翁さんに申しますのには「此小松原町で、今年中に死ぬ人と、病む人との名を敎へて下さらば、神藥製法の秘傳々御讓申ませう」と頼みました。

老翁は胡散な奴と白眼みまして「筮竹の持ち方も知らぬ癖に、敎はつて如何するんだ。」と詰りましたが、手をかへ品をかへ、只向に賴むので「到々横町の桶屋の爺と、金持の惠比須屋の若旦那とが、今年中に死ぬべく、其他誰々が病氣になる」と云ふ事を皆敎へてしまひました。

そして間もなく此老翁は極樂へ行つてしまひました。處が旅山伏は元來横着者で、胸に一物あるので御座いますから、毎日町を歩いて御布施を貰ひ乍ら、少し足りないらしい人に逢ふと「乃公は閻魔大王の御使者で、御地に來たんだが、此年は先づ桶屋の爺と惠比須屋の若旦那を連れて行かうと思ふ」と云つて聞せましたが之を聞いたは如何せ愚直な人々ですから大層驚駭して町中へ申觸れました。然し誰だつて此んな事を浮かと信ずる者の、ある筈が御座いません。

此方は横着者の山伏、爲すましたりと心に笑つて、亦密かに黄紙に譯の判らぬ文字を認め、下に閻魔大王と嚴めしく書いて、其傍に兼て老翁から敎つて知つて居る今年中に死ぬ人病む人の名を寫し、何夜中密かに御寺の前に持つて徃つて、何も書いて無い處だけ燒いて、仔細ありげに置いて來ました。

中

苔むした御寺の屋根の邊りに、終夜耀いて居た星の灯火を、燭の司の天童が、一つ一つ消して行く。それに從つて森の鳥が騒ぎ始めると、夜は次第に明けて參りました。そして、ソロ〳〵集つて來た御參詣の人々が、ふと見ると香爐の上に半燒の黄紙があるのを見付けて、何だらうと不思議に思ひましたが、それが凡て町民の姓名、其上、閻魔大王とあるので、愈々怪異み町中何處でも此噂で持切りの有樣となりました。

それと見て、横着者の山伏は、常でさへ薄氣味惡い風體なのに、奇妙奇手烈な作り聲をして「乃公は閻魔大王の御使者じや。去年は暇て不景氣じやつたから、今年は是非澤山命をとらなければならぬが一度に連れて行くと、厄介じやから兎に角、桶屋の爺と、惠比須屋の若旦那を連れて行くことにして、其他の誰々は、先づ病氣にして來年まで延して置かう」と聞えよかしに喚き乍ら、ノソ〳〵と町を歩きましたから、サア町の人々は今更のやうに騒ぎ立てました。その中に案の如く、丈夫だつた桶屋の爺が卒中で死に、間もなく惠比須屋の若旦那も脚氣衝心に斃れ、其他の誰彼も病氣になりましたので、一犬虚に吠えて萬犬實を傳ふ――即ち前に御寺の香爐に燒殘つて居た黄紙が、死ぬ順序を書付たもので、彼の怪異い旅の山伏は、眞實に閻魔大王の御使者らしいと云ふ事になりました。始めは相手にもしなかつた物識の人々までが、斯うなると今度は若しや乃公の番ではあるまいかと心配するやうになりました。

横着者の旅山伏は、此の人情の弱點に乘じたので御座います。肝要な黄紙の書付は、燒けて居て判らないし、此んな時の役に立つ、占ひの老翁は死んで仕まつたのですから、今天機を知つて居るらしいのは、素性の知れぬ山伏ばかり。然し其樣ことは云つて居られませんから、其處で町中の人々は大評定の結果、遂に禮を厚くして旅山伏に相談することになりました。

來る三月發表す可き
新案懸賞
梅か櫻かに就いて

△新案懸賞「梅か櫻か」の募集に應ずる人は、我が「愛國婦人」に對し、半年以上一年分の代金を前納したる愛讀者に限る。

△新案懸賞「梅か櫻か」の募集に應ぜんとする人は、來る二月末日までに半年分以上一年分の雜誌代を前納するを要す。但し既に前記相當の代金を納付しある愛讀者は應募の權利を有すること勿論なり。

◁今年の暦▷

閏二月　February　丙戌

日	S	…	2	9	16	23	…
月	M	…	3	10	17	24	…
火	T	…	4	11	18	25	…
水	W	…	5	12	19	26	…
木	T	…	6	13	20	27	…
金	F	…	7	14	21	28	…
土	S	1	8	15	22	29	…

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子猿の仇討（下）

村羊生

そこで小猿はどうしたらうか？是れからが小猿の舞臺である。若しも此の物語を一齣の悲劇とすれば、此の悲劇の主人公は言ふまでもなく此の小猿であらねばならぬ。記者は全然こゝに第三者の位置に立つて、此の小猿を中心として悲劇の成行を敍する事にしやう。

小猿は考へた。先方は痩せても枯れても一箇の人間である。自分は悲しい哉一匹の小猿に過ぎぬ。人間と猿の取合せては遺憾ながら此の取組は物にはならぬ。若し力を以て角する事が到底出來ない相談だとすれば此の復讎はどうでも人間の力を藉りなければならぬ。よしそれならば一番の捷逕たる巡査の手に縋つてやれと小猿は健氣にも決心した。

と恁う決心が付くと小猿はもう一刻も猶豫が出來なくなつた。極惡非道な最上屋の亭主の跡をつけて死骸の埋めた場所を見届けるや否や小猿は直ぐに引返して院内街道の大通りに出て、兼ねて見覺えある巡査駐在所に驅けつけた。

時は秋、野一面に霜は眞白に降りて東の空はだん／＼に白んで來た。小猿はもう人恐ろしさも何もない。唯だ憎い／＼最上屋の亭主に、主人の怨恨を思ひ知らしてやり度いといふ一念ばつかりだ。小猿は突然駐在所の表戸を破れん許りに叩きはじめた。返事がない。返事がない。又叩く、矢張り返事がない。小猿はもう溜らなくなつて激しい叫聲さへ交へて叩きはじめたので、寢坊な巡査も漸く眼を醒して、軈て大欠伸をしながら建附の惡い表戸をがたぴしやつて出て來たが、不思議にも表には人影も見えないので巡査は狐に鼻でも摘まれた樣な顏をして立つて居たが、此の時思ひがけなく戸口の隅から飛出して其の裾に搦み付いた小動物の姿を見ると巡査の驚愕は更に二乘された。見れば小猿は泣いて居る。そして時々思ひ出したやうに、小さな眞黒な掌を合はせて拜む眞似をしては巡査の裾を引張つて居る。其の樣子が如何にも事ありげなので、遉にそこは職掌柄、こいつ乾度深い仔細があるに相違ないと見て取つた巡査も鈍物ではなかつたので。

と見て小猿の雙眼は見る／＼喜びに輝いて來た。悲劇の主人公として此の表情は充分に看客を動かすに足るものがあつた。小猿は復讎の門出に於いて成功の第一歩を贏ち得たのである。巡査は手早く寢衣を制服に換へ、劍を鳴らして小猿とも／＼家を出た。

曉の星寒く野面には、人の子一人の姿も見えぬ。小猿は思ふ壺になつたのだから喜しくて溜らない。先になつてちよこ／＼驅出しては十間もゆくと乾度後をふり顧る、顧つては巡査の追付くのを待ち合せてまた驅け出す。かくして小さな村の幾つかを過ぎて某村の竹籔に添ひ、小さな丘を一つ越えて道は雜木林の小逕に入る。猿語らず人語らず、漸々に明けはなれた旭の光を受けて淋びしき秋の雜木林は寂乎として永遠の寂寞を領して居る。一町ならずして逕は落葉堆裡に埋もれたが小猿は平氣で埋れた小逕をわけてゆく。巡査も默つて隨いてゆく。踏み分け／＼行く程に二箇は期せずして青苔が一面に生えた大巖の前に出た。巖の後に入口の小な洞穴がある。そこまで來ると小猿の足はひたと止つた。そして低く悲しげな聲で啼きはじめたのである。巡査は偖こそと心竊かに肯いた樣子であつたが、直ぐに小猿のあとに隨いて洞穴の裡に這入り込んだ。いかさま古代の穴居の址とも見えて入口の割合には洞中は可なりの廣さで、幾十百年間積つては腐り腐つては積り、幾重となく重り合つた落葉の匂ひは、此の世ならぬ太古の夢を語るかのやう。それが慄然として鳴る巡査の佩劍の響きと和して、言ひ知れず寂しい感じを起さしめるのであつた。

小猿は頻りに四邊に眼を配りながら進んで行く、入口から四五十間許りの處で鳥渡立ちとまつて落葉がやゝ小高く吹き溜つた洞の一隅を怪疑な眼で眺めはしたが、ふと何者かを認めて俄かに烈しい叫聲を出したが、やがてそれが力のない弱々しい啼聲と變つたと思ふと小猿は大地の上に倒れ伏して再び低く啼きはじめたのである。

見ると洞穴は此處で更に一方に開けて微かな光線が冥途の灯のやうに注し込んで居る。そして其のあたり一面に何者か踏みあらしたものと見え、生々しい土が處々に露はれて居る。巡査の胸はどきりとなつた。そこで優しく小猿を呼んで劍鞘で大地を衝つきながら此處を掘れといふのかと手眞似をして見せると小猿は默つて肯いて居る。今は猶豫する時にあらずと巡査は手早く洋服の袖を捲つて、小猿の指すまゝに突然兩手を插込んで見ると思ひがけなくグニャリと手先に觸つたものがある。是れだなと思つたもので、巡査は全身の力を兩腕に込めてズル／＼と引摺り出さうと試ろみたが、其のまた重いことは一と通りでない。汗水グッショりになつて漸くの事で明るみに引き出して見て巡査は二度びつくりした。重いと思つたも道理、手觸りどなつたのは正しく人間の帶であつて、手に從つて露出したのは紛れもなく六十前後の男の死骸！而も死骸の未だ硬直つて居るところから見ると、死後十二時間とは經過して居らぬ。何さま他殺には相違ない。とすれば下手人は誰れだらうかとは第一に巡査の腦中に起つた問題であつた。

それと見て取つた小猿は直ぐに涙をおさめて巡査の劍鞘を輕く押へ、再び先に立つて舊來た道を引返した。無論巡査も隨いてゆく。

小猿はずん／＼進みゆく。院内街道に出ると小猿の足並は一層早くなつた。もう人の出盛りで、物賣りや旅人は幾人となく通つてゆく。そうして會ふ人毎に此の異樣なる二人の道伴を怪訝の瞳を以て見送らない者はない。間もなく兩箇は新庄の町に入つた。町に入ると同時に小猿は深き注意の瞳を道ゆく人々に拂ふのであつたが、愈々最上屋の前まで來ると、偶然齒揚子を使ひながら門口を出て來た最上屋の亭主に出合した。

小猿は殆んど氣が狂つたやうになつて烈しく巡査の劍を引張りながら同人の雙手に縋り付いた。巡査と小猿——一目見て其の男の顏は蒼白になつた。畜生！といつて男が力を極めて振椀かうと試みた時には既に男の雙手は後に廻つて居た。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

犯狀は男の白狀を俟つまでもなく明白であつた。最上屋の亭主は即日謀殺犯人として檢事局に送られた。憐むべき猿曳の葬儀は町の心ある人々によりて盛に執行はれたが、不思議なる此の葬式の行列が道の半ばを過ぎた頃、惡漢の捕縛と同時に姿を隱した小猿が、どこからとなく立ち現はれて棺側に從ひ菩提寺まで見送つたが、愈々棺が土中に葬むり去られ、バラ／＼と赤土が棺の上にふりかゝるのを見ると、小猿は俄かに人足共の手に縋りついて胸も張り裂けるやうな聲を出して啼出したので、知ると知らざるとに論なく誰れ一人優しき畜生の心情を思ひやつて同情の涙を流さないものはなかつたのである。

見送りの人々は、其の樣子があまり可哀さうなので、色々食物を與へたが小猿は少しも見向く樣子もない。とう／＼最愛の主人が一杯の土饅頭となるのを見ると、再びどこへか姿を隱して了つたが、翌日例の巡査が巡回の序に猿曳しの墓前に來て見ると、哀れにも小猿は木の果實や草花などを墓の前に一杯に盛りあげて、其の前に小さく堅くなつて死んで居たといふ事である。

擧世滔々として利に奔り、人情紙よりも薄き今日の人々の心と、此の小猿のやうな優にやさしき心情とを比較して、どちらが果して我々の規とすべきかは讀者諸氏の判斷に任せる事としやう。

（寄稿）

裝飾品の話（中）

長堰生

古代の印度の嗜好は思ひ切つて派出な所に特色を持つて居つて一體にテカ／＼した寧ろしつこいといふ許りの裝飾品が行はれた。それで極少量の黃金で極立派な細工品を造り出す手際は印度人に及ぶ者は恐らく無からうとの事である。

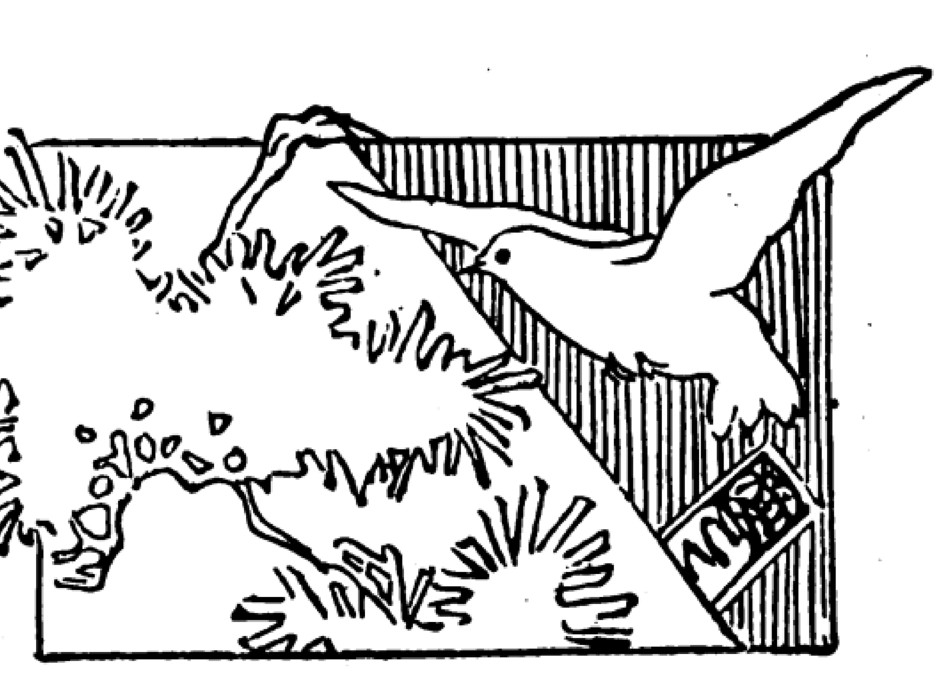
昔の寳石細工は畫工が畫をかくやうに意匠も細工も皆一人で仕上げ、時には其道具まで一人で造り出したものである、それが今日では分業になつて意匠は意匠で其道の專門家が工風を凝らし、細工は細工で別に其筋の達人が機械なり道具なりを使つて仕上るから小さな指輪でも一人では出來ない數人の者が寄りかゝつて造り上げるとになつて來た。

英國で廉價の寳石は所謂てんぷら物で銅を澤山に出す、之はバーミンハムから型で打ち出して電氣鍍金をかけ、夫へガラスを巧みに嵌めてダイヤモンドに似せるのである、それから銀細工は蘇格蘭が名產で獨逸からも澤山に來る、埋もれ木細工はダブリンが盛で黑玉はヨークシアのウヰトバイ、紅珊瑚はネープルスが主である。

次に指輪のとを少しく述べやう、指輪は古くから世界各國に行はれて居る裝飾品で金銀は云ふ迄もなく其他色々な金屬で造られて居る、而も其用ゐる所は單に指はかりでなく耳、鼻、頸、唇、腕、頭、乃至足指にまで用ゐる種族がある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勅題社頭松



大口鯛二大人選

東京 中根 富士子
千とせみやふるの社の神松にかけてもいのる君が御代かな

愛知 平松 いと子
いつの世に生ひ出てにけむ神垣の松の姿そたふとかりける

三河 河邊 竹子
千早ふる神の社の大前に茂れる松の風そゆたけき

淡路 古舘 久子
ふく風の音も尊しみやしろの松のこすゑのいよゝ茂りて

下野 岩根 登志子
おひしけるいおきの松は君が代の千代のためしに神やひきけむ

愛知 山田 志津子
かしは手のもれくる宮の松か枝にゆたけき年の色も見えけり

福島 添田 ちづ子
なんとなく神ゆたけく見ゆるなりあつたの宮の萬代の松

本郷 久保 たみ子
さしのほる神の御前の松か枝に千代吹く風の聞えけるかな

大阪 金田 つるえ
奥ふかくしづまりませるうぶすなの神の御前の松そ木高き

三河 山内 經子
住の江の松吹く風もしつまりて神のいかきに朝日さすなり

尾張 横井 はつ子
富柱ゆるかぬみよともろともにたちさかえゆく神垣の松

日向 山下 むら子
みつかきの老木の松の色かえぬ千世ゆえみとりは神やそめけむ

京都 宍久 春子
年老いしやしろの松も大君のめくみの露にいよゝ榮えむ

福岡 田代 みき
大み代の千代のさかえもかくとてや世々に生ひそふ神垣の松

下野 岩根 都奈子
住吉のおまえの松の萬代と君が御代をそほきたてまつる

三重 強力 愛子
神のます居垣の松にいろ添ひて御代のみいつそかゝやきにける

徳島 手束 いそ子
ぬかつける如き御前の老松は神のみいつのふかみどりして

丹後 池田 奐登子
かすか山峯におひそふわか松の千代のよはひなかみやもるらん

神奈川 鈴木 まつ子
ゆきはれて朝日さしそふ神垣の松のみとりのゆたかなるかな

佐賀 田村 梅能子
うきことの積りつもりてそひえたる社の松は我か師なりけり

廣島 金原 なを子
のちの世の人もたふとくおふくらむ鎮守のもりのまつのおほ木を

有島 幸子
神垣のしるしの松にしめはへてことしのさちをいのるけふかな

青森 留目 歌子
住吉の宮の玉垣さひぬれと松のみとりそ色まさりける

岩代 五十嵐 つる子
神垣に操るゝけて姫小松千代ほき初むる年立ちにけり

京都 田島 とよ子
水清き神の御池にいく千代を映す松か枝みとりましけり

晴野
かしこくも神世に齋し祠ならむ老松しける伊勢の大宮

岡山 山崎 露子
いやたかき神のみ庭に生ひいてし松のさかえはかきりしられす

山梨 小尾 玉代
凱旋の紀念のまつに色そへて神の宮居にとしたちにけり

岡山 横川 明子
うぶすなのやしろをおほふ老松は幾代の風にさらされにけむ

島根 萬田 よし子
大君の千年をいのる神垣にかはらぬ松をあふく嬉しさ

静岡 彦坂 清子
あふきみる伊勢の内外の神垣にたちさかえたる松のめてたさ

長崎 木田 りす子
萬代の御代の守りやこもるらん神さびたてる御やしろの松

東京 川村 峯子
ちりのよをたちはなれたる神かきのまつのみとりのきよくもあるかな

三重 荘司 種子
森さひて初日に色のまさりけり神のめつなる住吉のまつ

紀伊 西山 數子
大神のいかきの松に年立ちて國の光のいやましにけり

紀伊 西山 ひさゑ
初日さす神の御庭にひろけたる扉に似たる松の影かな

青森 佐藤 國子
大御代に幾萬代も若緑しけり榮ゆる御やしろの松

兵庫 河本 久米
神かきに目なれし松もなにとなくことしはことにいやたかく見ゆ

群馬 井田 しま子
千代をへし社のまつもかくばかりはえある年をほき祝ふらん

[illegible]町 田村 多美子
七五三はりし松は尊く稚兒松はめてたかりけり神の御社

[illegible]町 田村 奈津子
神の代の遺物と民に仰かるゝ松の一樹に神寂し庭

[illegible]町 田村 可れ子
神代よりたちさかえたるこのまつの靈直に伸し神の庭かな

石川 小坂 なつ子
とことはに榮えゆくらん神垣の松は年こと色まさりつつ

鹿兒島 松村 壽賀子
つたかつらはひかゝりても大前にかみさひ立てる千代の松か枝

呉市 竹入 [illegible]子
みやしろの神のめくみもかさなりて幾代へぬらん松のおほ木は

山口 米田 良節子
さしのほる初日のひかり眞澄にて神さびたてるみやしろの松

長野 [illegible]枝 きん子
年ことにいや茂りゆく神垣の松は幾代かたちさかゆらん

愛知 下郷 すゑの
水清き御裳濯川の峰に生ふる松や神代の姿なるらむ

同上 同人
歳ことに枝葉茂りてみほこらを覆ふもうれし森のひともと

岡山 武田 須磨子
末遠き小松なからも神さひて立榮えゆく瑞かきの下

福岡 北原 瑞子
守りますかみの御いつやこもるらんちとせかはらぬ松のみとりに

岡山 貝原 壽ゑ
榮えつゝ千代をへぬらんふかみとり氣高く見ゆるみ社の松

京都 池田 奐登子
斧入れぬこの御社のまつみてもかみをゐやまふ國とこそ知れ

第七十五回文苑募集

―締切二月二十日―
▽發表三月五日△

和歌　春季雜題　大口鯛二大人選
俳句　春季雜題　内藤鳴雪大人選
新體詩　少女　編輯局同人選評
短文　寫生　同上

▽懸賞品▽
一等　總裁殿下御染筆掛幅　壹幅
二等　主婦の職分　壹册
三等　扇子　一本

▽其他一口噺の新作を募り、誌上へ掲載せる分へは、所載の愛國婦人一部を贈呈す。亦輕便なる地方的料理法を報ぜらるゝ向きへは、斯道の大家に選評を乞うて後、誌上に掲載し相當の賞品を呈すること〻せり。

△猶ほ誌上の一部を開放して讀者欄を設くべきに就き本誌に對する希望等を簡潔に記して投ぜられたし。

▲懸賞品發送に就て▼

係記者

本誌文苑にて常に活動せらるゝ才媛諸姉には、兼て奨勵の爲め些少ながら、賞品を贈與する規定なりし處、種々の事情に妨げられて、近來は兎角發送停滞勝ちなりしが、今度び編輯局の大改革を行ふと同時に、懸賞品等も今後は決して遲延せざる筈なれば、此際諸姉も一層才華を揮ひて本誌の爲に盡されたし。猶ほ本誌第百三十八號よりの當選者には、旣に先日賞品取まとめの上發送したれども、左記の諸姉は住所不明に就き、至急申出を乞ふ。

●天野みほ子●河野梅子●吉光寺とし子●加藤ふみ子●蓑輪貞子●下郷きみ子●長谷いく子●松谷春子●みち代●君子●山本ちよ子

亦第百三十八號前の當選者中左記の諸姉も同様申出られたし。

●鈴木ふと子●河野そめ子●小野寺千とせ

右の他、調査洩れ等もありて、未だ賞品を受領せざる向きへは、取調べの上發送すべき故、これ亦氏名御通知ありたし。

因に記す。今後應募原稿へは餘白の個處に、住所姓名を詳しく記されたし。然らざれば賞品の發送は自然後廻しとなるべきなり。

發送せる懸賞品は左の如し。

一、一等　本會總裁宮殿下御染筆掛幅　一幅
一、二等　主婦の職分　一册
一、三等　扇子　一本

其他に交換繪端書十枚乃至二十枚を添へたることは從前の通りなり。

●●新體詩の應募者は和歌俳句短文等に比して、從來極めて少數なりし爲め、自然佳作にも乏しかりしが、此際才媛諸姉には此方面へも、筆を執られんことを切望し置く。

歳新たにして、天地の風物自ら新たなり。此の新天新地に於ける自然の光景に伴ふて、我が愛國婦人發行所も亦た自から計畫するところ莫らんや。即ち此の新年劈頭第一に於て

女德論叢

を陸續出版し、一面に於ては一家の主婦、娘子たる人々の參考に供し同時に他の一面に於いて女子教育の任に當れる人々の研究資料と爲さんと欲するの議全く成れり。詳しくは近刊の誌上に廣告すべければ、諸姉乞ふ此の福音を歡迎し給はんことを

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

——春季雜題——

佐々木信綱大人選

天

三重縣　西山ひさゑ

脱き捨てし赤き鼻緒の小草履に積りて消えぬ春の雪かな

評。小草履の主の可憐なる面わも見ゆるやうなり。

地

越後國　歌川美千代

鍬をかたにしつの少女のうちつれて月にさゝめく春のあぜみち

評。樂しひは玉の臺にのみすまず畦みちの浮世かたり思ふ事なき樂しさなるべし。

人

靜岡縣　彦坂清子

咲きつゝくすゝなのはたをなかめつゝのとかに暮らす春の山里

評。都の塵にまじりたる身にはかゝる境なつかしくこそ。

秀逸

百々千鳥花咲く野邊になかき日もわすれて遊ぶ春のたのしさ　愛知　平松いと子

うちけぶる春の汐路をいく千里たなびきつゝく霞なるらむ　靜岡　みち子

春くればもの皆春の心地して吹く風の音も長閑かりけり　岡山　清水梅子

うちなびく柳の糸にかゝりけり霞こめたる春の夜の月　青森　大橋のぶ子

若菜摘む少女の姿見えぬまで霞そめたる春の野邊かな　大分　桂木文子

甲

ひとしきりなく鶯のこゑたえて梅の梢に雨そふりける　横濱　鈴木まつ子

脚とめてしばしめてん里川の水に影さす峰の梅枝　愛知　下郷きみ子

吉野山花みる毎に偲ぶかな過きし昔の奈良の都を　大分　清閑女

幼子があけし障子のあなたよりつれなくも吹きとほしける初春の風　青森　留目文子

はなやけき新嫁君のつゝく輿花にかくれぬおぼろ月の夜　讃岐　瀬高やす子

ふりつみしこすゑのゆきもはる風にうちかけてなくうぐひすの聲　遠江　萩原さだ子

白露のもとより匂ふ紅梅を琴の手やめて姫はみましぬ　山形　阿部さゐ子

おもしろき琴のしらべにたゝすめば小簾のかなたに鶯のこゑ　岡山　山崎露子

乙

みなひとつ指折りそへてうまこらがまとゐたのしむ今日そめでたき　筑前　松の操

うぐひすのなく音を耳に見上ぐれば隣の梅は笑をふくみぬ　美作　頓信榮

うれしげに鳥も語りてひんがしの山より霞むけふのうらゝか　愛知　下郷すゑの

枝ことに春はときはのまさりつゝいくとかへりの松のいろかな　麹町　戸塚鐵子

里川の氷もとけて我宿のかきねのやなぎはる風そ吹く　堺市　金田つるえ

日のみ旗かゝげて見れば風もなくのとかなりける年はきにけり　岡山　入木清子

野も山も結ぶ氷のとけそめていらかにもゆる人心かな　小石川　安東ちせ

人皆の高きいやしきおしなべてあまれき御代の春そたのしき　同上　同人

海と陸高さくらぶる標し石に見えわかぬほどのころゆきかな　三重　西山きよし

あかき〳〵まんりようの實をいくすへりあとをもとめぬ春の雪かな　三重　西山數子

天さかるひなに住む身は春ことにみやこの空の忍ばるる哉　青森　大橋八佐子

山のはたかすみなからにりみえてあけゆく花に朝風そふく　岡山　横川明子

家つとに折りてやゆかん雉子鳴く燒野の原にもゆる早わらび　鹿兒島　藤乃錠

大日本女學會

新學期を開き會員を募集す

●本會は女學通信教授の鼻祖にして明治廿八年創立以來四萬人の會員に女子必須の諸學科を講習せしめたり
●本會は伏見宮博恭王妃殿下を總裁に奉戴し鍋島侯爵夫人會長として會務を統べ第一流の諸大家講義を擔任す其基礎の確實なる講義錄の有益なる夙に世の定評ある所也
●本會は創立十週年に當り畏くも皇后陛下より御歌特賜の恩命を蒙りたり
●本會は明治卅六年以來宮中歌御會始に選歌の光榮を擔ひし會員五名に及べり其他文部省檢定試驗に合格せる者も少からず以て本會教授の効果を知るべし
●本會は高等科と普通科と二種の講義錄を發行す月謝は高等科五拾錢普通科貳拾五錢也詳細なる會則希望者には葉書にて請求あり次第進呈す

東京青山原宿二百十番地

大日本女學會

電活新橋一八三〇　振替貯金一一八三六

文學雜誌『新聲』

△毎月一回一日發行△定價一部金拾五錢△
△六部(半年分)金九拾二錢△郵稅一錢五厘

株式會社　隆文館

色黒き人に告

肌を純白たらしめんと欲せば牛乳浴牛乳浴に勝るは

クリーム石鹸

定價　小形十五錢　大形廿五錢　特五十錢

香氣馥郁として香水匂袋の代用をなす

輸入元　東京神田久右衛門町　オーケー商會

相替らずスコット乳菓を嗜好致候拙者共はスコット乳菓の効驗の致す所と確認致候

肺炎に罹りたる後スコット乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り滿三ケ月間伏蓐能在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコット乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて者共はスコット乳菓が愚息に與へたる好果を视て右愚息の平癒を以て全くスコ

千九百六年三月十一日

シーフキルド、ドールセット街六拾三番地
ジョン、イー、ブレーキー

右快復の理由

右ジャッキー、ブレーキー、が肺結核とならずして快復したるは全くスコット乳菓中に含有する優逸なるロフオテン大口魚肝油（最上等にして最高價なる肝油）が其肺臟を癒やし其全身に良好堅靭なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり

他のありふれたる大口魚肝油乳菓は斯くスコット獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非ざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

坪井博士著　隆文館發兌

婦人と小兒

定價金八拾錢

大勝堂

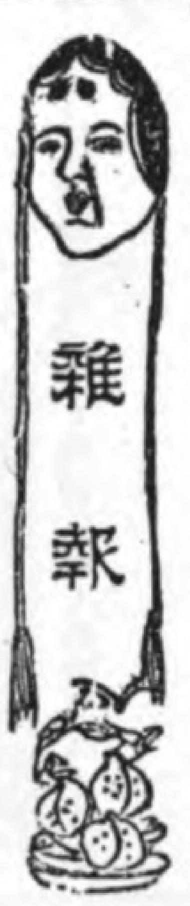
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

人より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざる迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せし百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……

東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

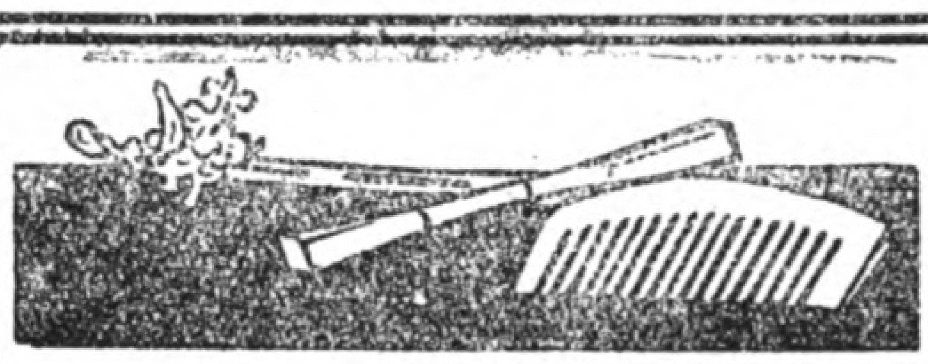
妾薄毛にて種々藥を試しも効なく醫學博士夫の分ける所三者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



雜報

▽婦人農藝會講演會　去一月廿五日午後二時より神田橋外和强樂堂に於て其第一回講演會を開く。來會者二百餘名。秋間爲子女史先づ、開會の詞に併せて本會の趣旨を述べ、次に棚橋絢子女史の敎育と植物と題する講話及江原素六氏の家庭と社會の影響に就ての實驗談あり其槪要は「廿三億圓の負債を何うするか」と改題別項記載の如し。最後に横井時敬氏は農業の眞趣味に就て幾多の例證を擧げて平易に述べられ、終りて散會せしは彼は誰れ時。第一回の講演としては成功に近かりき。



流行の
櫛　簪　箸
鼈甲　金　銀
寶石細工
束髪用品
[illegible]
三ツ井屋
[illegible]
[illegible]

皮膚の營養上　衛生美顔　容貌の美のために特に薦撰する良劑
『シモン、グリスリン、クリーム』

登錄商標

Crème Simon

『シモン、グリーム』は近頃の製造品ではありません久しき以前より御使用と御評判を受けて居るのであります

『シモン、クリーム』は一種の强壯劑と皮膚を柔かくする藥劑とを配合して製造したる衛生上無比の良品であります

『シモン、クリーム』は皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべ〳〵となり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ又快よき香氣を發します毎日御化粧の時に御使用になれば何時でもつやつやしき容貌を保たれます

『シモン、クリーム』はヒヾ、アレ、日にヤケ、汗も、ニキビ、唇のわれ、霜やけ、赤ら顔、又は毒虫に刺された時にお塗りになれば僅かに少時間で其効能が分ります又髯剃の後や小供衆に塗抹しますとすべ〳〵として大變氣持がよく、又美しくもなります

本品は販路が益々擴張さるに從ひて僞物が多く市場に出てて居りますから御求の際は「シモン、クリーム」「粉をしろい」石鹼共特に登錄商標を御確めの上御購求願ます東京及大阪の三越呉服店を始め各地の洋品店化粧品店に販賣致して居ります

日本代理店
横濱七十番
エー、ハイム商會

プレスト洗粉

本品の特色は最も皮膚に有効なる原料を以て精製したる者なれば色を白く肌を滑らかならしむ

定價
袋入金貳錢　同金五錢
大袋金十錢　罐入金七錢
同金十五錢　特製金壹圓

本舗　東京牛込　山本玉川堂

製造元　胡蝶園
畏き邊りの御料に召させ給ふ
完全無鉛
高貴御化粧料
御料　御園白粉
東京日本橋區橘町四丁目
發賣元　丸見屋商店
電話浪花四番

ねり製　御園白粉
水製　御園白粉
こな製　御園白粉
洋式化粧クリーム　御園の蕾
高尚化粧水　御園とき水
新式ふきとり白粉　御園なでしこ
濃厚化粧水　御園四季の花
高尚化粧油　御園香油
高尚化粧香水　御園香水
高尚はみがき　御園歯磨

○院長　ドクトル　木村順吉
婦人科產科　木村病院
京橋丹間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

齒科治療　ドクトル　齋藤淸太郎
麴町有樂町帝國ホテル向（電本千五百十九）

產科婦人科　楠田病院
東京日本橋區濱町三丁目七番地

院長　醫學博士　榊順次郎
副　醫學士　久保德太郎
副　醫學士　田代謹二
婦人科產科　毎日午前診察
婦人科的外科
外國留學中
婦人生殖器病
泌尿器病及內科
一般火木土午後診察

婦人科產科　榊病院
●施診火木土自午後一時至二時
麴町區三番町三三（電話番町三九五）

腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等
●午前　自宅　神田多町壹ノ八
●午後　岩佐病院　日本橋區蠣殼町
醫學博士　土田卯三郎

◉婦人科
◉小兒科專門　午前宅診　午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫　鷲山彌生

水原產科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院內ニ產婆學校アリ

內科　外科　產科
婦人科　耳鼻咽喉科
皮膚科　梅毒　泌尿器科
各專門分擔
芝愛宕町　東京病院
電話新橋（一二六四）（二六二〇）
院長　醫學博士　男爵高木兼寛

內科一般　午前宅診　午後往診
板垣亭
東京神田美土代町三丁目十九番地
電話本局貳千九百七十番

院長　醫學士　烏山南壽次郎
烏山內科院
午前診察　午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

耳鼻咽喉病診察
中村醫院
淺草向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り

肋膜炎、腎臓炎、
體格檢查（官公私立學校及檢定受驗者）
菅能內科醫院
神田錦町正則英語學校前（電本二二五六）

院長　ドクトル　メヂチーネ　峰秀世
峰內科醫院
內科病特に腦脊髓神經疾患
神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）

午前宅診午後往診　入院隨時
內山小兒科醫院
淺草區下平右衛門町十七番地
柳橋通り（電下一三六五）

小兒病診療　宅診午前　往診午後
醫學士　內田愼太郎
淺草區福井町貳番地
●電話下谷七一八番

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地
（電話浪花六九七番）
診察時間　自午前九時至正十二時
內科婦人科　院主　岩佐純
內科　院長　岩佐新
（獨逸留學中）副院長　ドクトル　醫學士　高田壽
外科　醫學士　山村正雄
產科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

產科婦人科專門
岩田病院
診察毎日午前　入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八

◉婦人病專門
院長　櫻井克己
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮樣前
電話新橋三三二四

小兒科專門
瘰癧症（腺病）小兒貧血症、結核性腹膜炎、腹水、（脹滿、脾疳）小兒皮膚病、百日咳、小兒ノ虛弱體質ハ前記ノ症ニ罹リ易ク動スレバ不治ニ陷ル余ハ獨逸留學中研究セシ體質强壯法ヲ以テ斯病ノ豫防及ヒ治療ヲ施ス
ドクトル　メヂチーネ　長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二月一日より均一法大賣出し

近來歐米各國の間に行はれつゝある均一法方に則り多大の損害を不顧一大英斷を以て來る二月一日より商品の一部の價格を同一にし非常の廉價を以て御需に應じ度右は不生産的の賣出なれども實際弊店が勉强と其法方に苦心をなし平素の御愛顧に報ぜんが爲めにして隨而此非常なる廉價の物品は反數に限りあることなれば此好機を逸せず御光來の上多少に不拘御買求あらんことを偏に奉願上候

日本橋區通四丁目
松屋呉服店
牛山武兵衞

資本金八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社十五銀行
電話新橋 三〇〇番 一五三〇番 一九三三番
同日本橋區新乘物町
同日本橋支店
電話浪花 一九〇〇番 二三七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

日本一の少年パック
二月一日發行第二卷第二號毎月一回發行
定價 壹冊八錢郵税五厘〇六冊四拾八錢郵税共九拾錢〇拾貳冊郵税共
第二號目次
▲鬼は外福は內▲足袋の舞踊▲蝸牛の屁▲廻轉はしご▲凸坊の大惡戯▲雪合戰▲熱い碁石▲大蛇▲うまい落方▲菓子喰ふ猫▲針鼠の智惠▲其他いろ〱變化繪…澤山
●讀物には▲凧の天上▲鬼は……
本號には大懸賞當撰者發表あり尚ほ三號より毎回懷中時計一個宛の懸賞あり〇少年少女諸君の大好評
發行所　東京京橋區南紺屋町一　少年パック社

THE GEM

ゼム
衛生家必携
懐中良藥
新年と『ゼム』
○みどりこき門松と共に美くしき新春をむかへ芳香馥郁たるものは「ゼム」なり、
○屠蘇に醉ひ電車、俥、に揺られて心地惡しき時精神を爽快ならしむるものは「ゼム」なり、
○新年宴會に酒、煙草を過し惡醉に苦しむ事なくその味を美ならしむるものは「ゼム」なり、
○歌留多會、福引會、及び新年の交際社會に優雅なる紳士淑女の必ず携帶すべきは「ゼム」なり、故に「ゼム」は年始回禮者の缺くべからざる者なり、
新年と『ゼム』
定價 粒入百粒入廿錢 七十粒入十五錢 四百粒入壹圓 容器入廿五錢 百粒入十錢 六十九錢
東京 愛國堂 大阪 山崎
京 馬 高 兄
喰山崎 麗 弟
町二 橋 二 商
三丁目 榮 丁目 會 郎

全紙悉く寫眞挿入優美艶麗畫報兼備
婦人世界
二月一日發行第三卷 第貳號 拾五錢 郵税一錢 五厘 六冊九錢 分税共 郵十冊 壹圓 二十錢 七拾五錢
▲男女結婚論　村井弦齋
◎婦人の言葉使ひ　西田敬止
◎時計物語　ドクトル夫人 川瀨富美子
◎米國女學生の寄宿舍生活……代議士夫人 栗塚龍子
◎私の見たる山脇房子女史……工學士夫人 橫河下枝子
◎私の母棚橋絢子より受けたる教訓……白露生
●斯くの如き女學生は必らず成業す……御歌所寄人 坂正臣
◎習字は如何にせば上達するか……鳩山春子
◎良人を助け愛兒を敎育する私の日常生活……跡見玉枝
◎初めて米國に渡りし時の實驗談……醫學博士 加藤照麿
◎小兒の夜泣……弦齋夫人
◎牛肉料理
▲本號には懸賞附錄當選發表あり
東京京橋南紺屋町十二　實業之日本社（振替貯金參貳六番）　賣捌全國書店

カメリヤ洗粉
●容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配劑せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用によりて顯はる
定價 大瓶壹圓廿五錢 小瓶同十五錢 大袋同五錢 小袋同三錢 鑵入同十三錢

發賣元 東京 大阪 小林富次郎 天津 漢口 上海

半ゑり帯揚類
季節草花植物模様
○諸刺繍友染模様絞り模様色無地
○紅白繍惣絞り形繍入染形繍絞り
崭新ショール大都花織絹毛織絲編類
襦袢袖○高祖頭巾○男女方用襟巻○前掛
懐中帛紗○御祝ひ帛紗地○襟飾ネクタイ
地方御注文被仰越候節は振替貯金口座の
千四百○一番へ御振込の上は速に御送品
手續き可申上候尚振替貯金口座の外は可
成○御用命品の見積り代金御送金被遊度
願仕候過剩金は郵便印紙を御返附可仕候
御進物用美麗なる調製有本支店出店とも
切手箱入共通可仕候
但し金額壹圓以上貳圓三圓貳拾圓未滿
新橋竹川町十二番 電話新橋二〇二七番 本店 ゑり治
神田表神保町壹番 電話本局九五二 支店 ゑり治
新橋際博品館內階下 出張店 ゑり治

最新刊
偉人の友
婦人の感化
西洞たみの女史譯編 總クロース製挿畫數葉 金拾六錢 郵税六錢
婦人の隠れたる獻身的犧牲は世界を動かす大偉人をして其光彩を放たしむ自ら起ちて大事を成せる婦人も偉とすべけれど殊に慕ふべく倣ふべきは偉人の影に隠れて其慰安者となり獎勵者となれる婦人にあらずや日本女子大學校の才媛西洞たみの女史茲に見る所ありて此書を成す收むる所偉人の母あり偉人の妻あり姉妹あり娘あり朋友あり或は高潔清淨の佳人或は溫良貞淑の婦人或は可憐無垢の乙女何れも皆偉人の心を支配し大なる感化を之に與ふ此書を讀まん者赫奕たる英名を青史に垂れたる偉人が活動の力の根源果して那邊に存せしかを自ら悟るべし
●歐米母の會に於て非常なる好評を受けたる名著の譯出づ
文學士皆川正禧譯述 ●總フリガナつき
最新刊
母の道
金貳拾錢 郵税貳錢
如何にせば賢母たり得べきや 小兒の教育は如何にすべき乎 子供の惡癖を矯正するの法 如何に心身を健全ならしむる道 如何なる敎ふ
東京巣鴨郵便區染井（振替三五五番）
內外出版協會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

慈善施療廣告

日本橋區通二丁目十二番地 **大澤留三郎氏**

神田區佐柄木町二十一番地 **齋藤英三郎氏**

前記大澤內科醫及び齋藤齒科醫には本會旨趣を賛成せられ癈兵並に同家族戰死準戰死者遺族の方々に對し慈善施療を被致候に付き施療を受けむとせらるゝ方は下記の規定を一覽あるべし

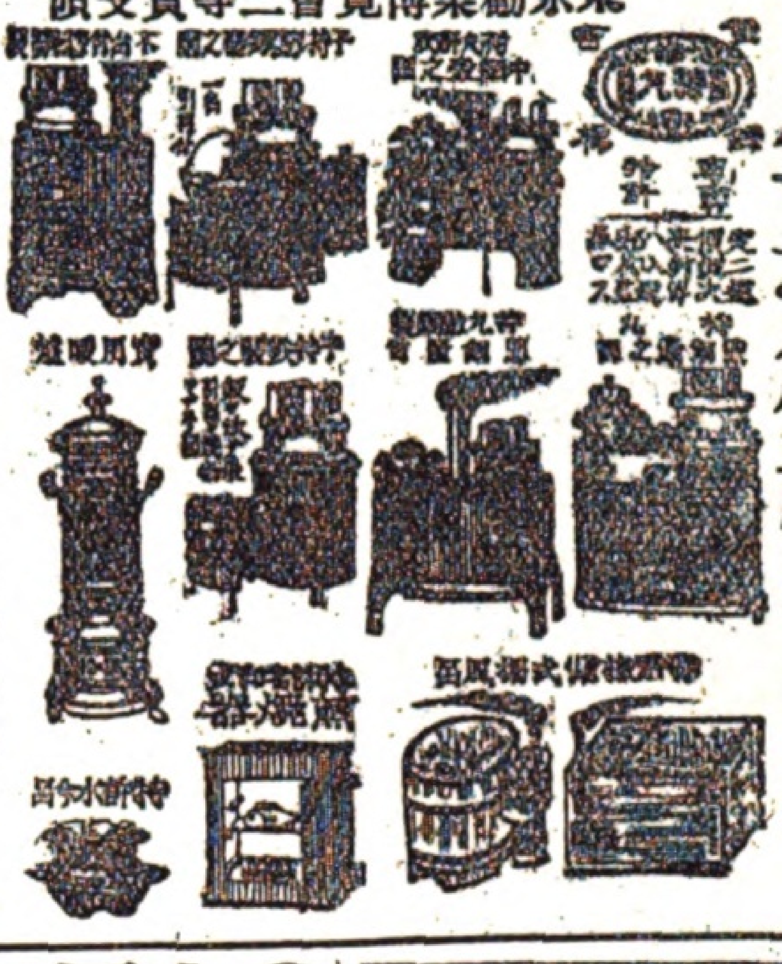
慈善施療規定

一、東京府內に居住する癈兵並に同家族戰死者準戰死者に對し本規定に據り診斷治療を行ふ(但し齋藤醫師施療區域は當分の內京橋、日本橋、神田、芝、麴町の五區內のみとす)

一、右施療を受けむと欲する患者は麴町區九段坂下牛ヶ淵公園愛國婦人會東京支部又は各區幹事部に就て施療券を受領さるべし

愛國婦人會 東京支部

東京勸業博覽會三等賞受領



▲正定價引なし

營業品目 特許竈各種●特許据風呂 特許テンピ●●特許水焜呂 實用暖爐●●鍋釜品々

日本橋區蠣殼町二丁目十五番地 神田泉町通松永町十八(電浪一一七七番) **名和本支店**

本品は畏れ多くも 常宮殿下 周宮殿下 富美宮殿下 泰宮殿下 御使用品

高等香油 **チエリーオイル**

紳士貴婦人令孃用

千九百七年式巴里流行 乳狀薄化粧料 **エフスクリーム**

珍ら敷新輸入品

最も日本婦人に適し皮膚の營養滑澤に實効ある

佛蘭西新式煉白粉代用品

本品は顏を洗ひ乾きたる後少量を萬遍なくぬり摩擦すれば實に得も云へぬなめらかによきつやを出し香氣よくあれを防ぎ白粉やけ皺のよる憂なし又ゑりの汚れることなき嶄新良好なる薄化粧料として紳士貴婦人間に高評あり

定價一瓶三十五錢全國到る所の賣藥小間物化粧品店にあり

發賣元 東京市日本橋區本町二丁目 チエリーオイル本舖 **高橋初次郎** 振替貯金口座一〇九三二番 電話長本局四一一三番

●最高評受驗準備書第三版發行●

佐藤益助君著 **中學校 高等女學校 入學豫習算術** 定價參拾錢 郵稅六錢

近藤文學士著 **師範學校 中學校 高等女學校 入學豫習讀本** 定價四拾錢 郵稅八錢(郵券一割增)

▲右二書は師範學校、中學校、幼年學校、高等女學校等へ入學せんとする學生諸君の受驗準備に應ぜんが爲め編纂せるもの●算術は秩序的に計算の方法と問題の解釋を示し例解と練習問題を多くし受驗に關する諸種の注意事項を記し擬試驗問題を設け答案練習を兼ね實力の速進と正確とを圖りたり●讀本は豫習文を本章とし各種の設問を附記し分り易く仕組み鼇頭には文法其他の注意を施せり●二書に依り準備せられんか實力備り試驗場に臨みては勇氣百倍せん

近藤文學士著 **國語漢文 青年讀本** 前編定價貳拾八錢 後編定價貳拾八錢 郵稅各六錢

▲本書は高等小學校補習科實業學校青年夜學等に使用すべき目的を以て國民的材料を網羅し文質彬々品性堅實たる青年たらしめんとしたり漢文を巧に插入したるは其の特色ある所なり吾人は地方の青年に必讀せられんこと切望に堪へず

發兌 東京市本郷 **育成會** 振替口座九三〇八

女鑑

一冊金貳拾錢(總て無郵稅)
一年前金貳圓拾錢

◎二月號には長與、坪井、寺尾三博士、村田、村上、鈴木、河上の諸學士、楠田院長、高島平三郎其他諸大家の**家事及び社會の實際問題**に觀ての高話等趣味津々

戀愛觀(中川專判) **美人**となる法 小**見え坊**(柳川春葉) **口繪插畫** 皆獨得の珍品

◎大懸賞 金側時計 繻珍丸帶

▽紋羽二重△勸業債券▽絹蝙蝠傘其他景品 一年前金拂込二月廿九日迄に申込まれたる方にて公平抽籤にて一本も外れなし猶貯蓄債券探し當懸賞案等の大懸賞募集二月號を見よ

東京築地二丁目 電話新橋八八 振替口座壹壹七八

國光社

金の出る機械……

タッタ參圓を出せばスグに機械が來る、續いて使ひ方を教へに教師が來て呉れる、使ひ方が分れば廻して見る、なる程面白い、コレハ珍だ、やつて居る內に金が溜る、ソレは今迄外で買つたものを內で作るからであります、コノ名案は外ならぬ……『無報酬出張教授付(當分東京及び横濱市內だけ)』のシンガーミシン月賦大販賣法であります

Singer machine

家庭向婦人用——和服も縫へる

シンガーミシン

特廉 月賦大販賣

無報酬出張教授

▲從來の普通賣買法……亦其儘繼續致候……

●▼明細書 御申越次第無代送呈す

シンガー裁縫機械會社東京支店 銀座三丁目

しらが赤毛の人に告ぐ

二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黑さ光澤を發し美麗なるは烏羽の如くして永久禿げる事なし其理由は毛髮中に硫黃質を含めるものにて此の硫黃質と液劑と毛中にて化合酸化硫黃となりて黑色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

東京京橋本材木町三ノ四 毛染所 **岡田藥店**

神田 はりまや 赤のれん

電話本局二八三五 神田表神保町壹番 出店 新橋博品館階上

胃病良藥 **太田胃散**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

天下を風靡せる姉妹雑誌の活動

女學世界

空前絶後珍珍附錄

大懸賞 寶さがし

一等 百圓 三越呉服店切符 ●婦人用肩掛 ●縮緬帶上げ ●駒下駄 ●女持金時計 ●女持金指輪 ●呉服切符 ●化粧道具 ●銀貨入 ●三枚櫛 ●千代田草履其他

景品物類 品數六百三十八點 景品總額 壹千圓

二月一日發行 八巻 第三號 正價廿錢 郵税二錢

◎婦人娛樂論　三輪田元道
◎新聞の新聞　大町桂月
◎お姫樣の平民生活　木村貞子
◎思出多き我が生涯　小川直子
●妻たるの資格に就て
●鳩山夫人の結婚論
◎誘惑に對する處女の心理解剖　元祿姉さん
●商業上の呼吸　思考女史
●令孃の人生觀　峰子
(小說)乳母　岡田八千代
(戯)母子草　濱千鳥
△洋食道樂…△鶯と春の雪…△春の面影…△都門の雜響…△美容法…

◎前金郵税共四冊八十三錢◎十六冊一圓五十六錢◎

少女世界

▲口繪 ◎にほひ菫(彩色石版) ◎初かすみ(彩色石版) ◎我が家園 ◎梅の里
●お伽小説 みどり草紙 小波 ▽照子姫 ▽野路の櫨
●お伽芝居 正直婆(生田葵山) ▽玉の光 ▽機織姫
●少女歌劇 花の女王(天籟) ▽梅の歌 ▽炭火物語
●梅花の涎掛 ◎京都のお伽芝居 ◎女學校めぐり等
●少女英語組立
●針の運び方

二月一日發行 第三號 ▲正價拾錢郵税二錢 前金郵税共四冊四十錢 八冊(半ケ年分)八十二錢◎十六冊(一ケ年分)一圓五十六錢▲

▷▷ 東京日本橋本町 博文館 郵便振替貯金口座二四〇番 ◁◁

東京銀座壹丁目
木村屋本店
電話新橋一一三九番
芝公園勸業館内出店
横濱伊勢佐木町支店

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達 玉寶堂 電話下谷(特九六五番 一二四四番)

◉色を白くし にきび知らず

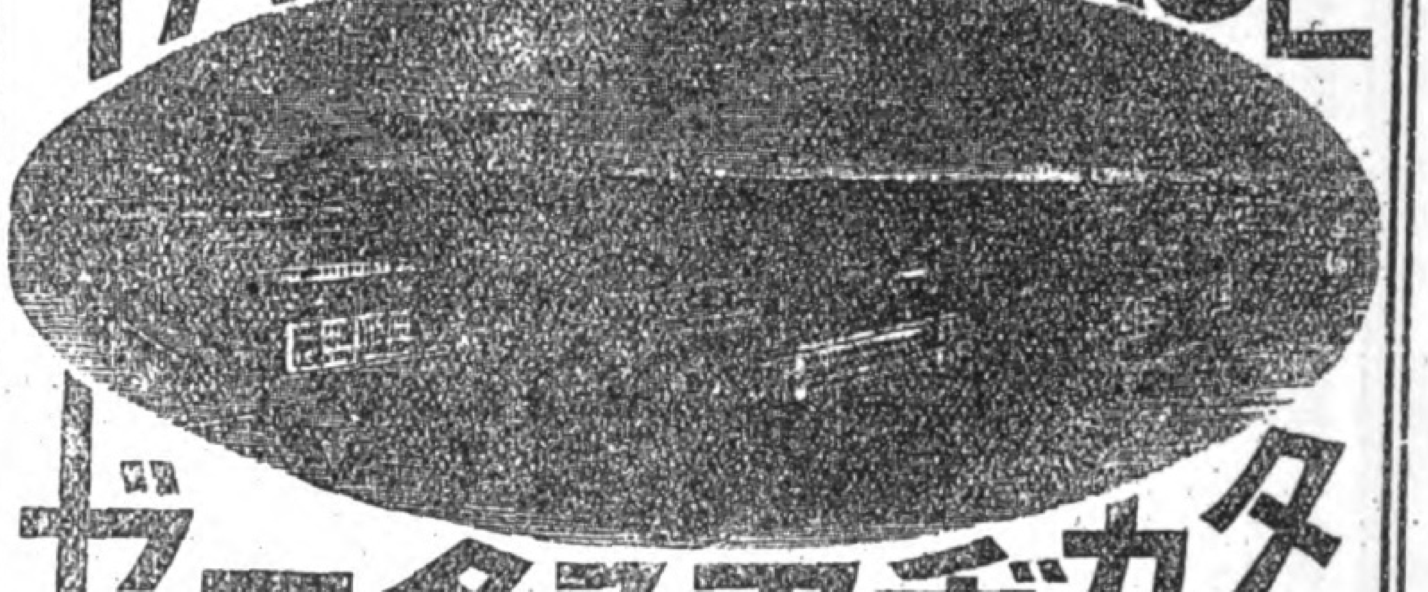
獨逸國ドレスデン市 ロールメヂシンス會社製品

皮膚特效美白新劑 チフリ化粧水

○本品は西暦千九百六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顔たらしむる事は第一の特色なり
○本品は皮膚に特效ある藥品を配劑しあるに依り「ニキビ」「ソバカス」「ハタケ」其他「顔のアレ」等に最も奇效あり
○本品の效能顯著たる事は試驗成績の結果に於て之を確むるを得遂に政府印紙を貼用するに至れり本邦に於て化粧水に印紙を貼用せるは本品を以て嚆矢とす
○東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢(六瓶迄)相添へ本舗へ御注文あれば直送す
正價小瓶三十グラム入 金二十五錢

日本一手販賣 東京日本橋區本石町 松澤常吉

TAKA-DIASTASE



タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。

高峯氏發見消化新劑

完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶強度均一にして、又其效力永久不變なり。

醫師及藥舗諸彦！模造品製造者の誇大なる虚僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徴し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舗にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

羽根蒲團 毛布膝掛 小兒帽子 リボン造花 手袋沓下 西洋小間物

新年新形。絹モール ボアー。マフ

東京牛込神樂坂 朝日堂 電話番町一六九九

家庭お伽話

「家庭の讀物としてこれ以上のもの恐らくはあるまいと」の評判を得ました

▲一月二十日發行 第十三篇▽

日本 牛の報恩 高野斑山
西洋 豚の兄弟 吉岡向陽

ナグサミクラブ 餘興智恵くらべ

實價金八錢郵税二錢
六冊分前金六十錢
十二冊分壹圓二十錢

發兌 東京日本橋通四丁目角 春陽堂

實用新案特許

二枚折 藤井式衣桁

定價 甲六円 乙五円五十錢 丙五円

掛物箱製造販賣 東京市[illegible]町三番地廿九番地 藤井兵太郎

大俵炭

大徳用 山出シノ儘叺入堅炭、土釜、切炭、壹俵ハ拾貫目内外入 目方ウリ 市内ハ無賃配達

戸塚商店

電話本局三二〇八
神田三崎川岸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 京橋區南鍋町 一星社
秀逸社
日本橋區上槇町 日本橋區箱崎町 萬年社
春風舍
京橋區宗十郎町 京橋區日吉町 正路喜舍
帝國通信社
同區彌左衛門町 同區南鍋町 京華社支店
廣告社

洗用 ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳匁)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効てす

定價 拾貳匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

院長診察月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火木午前入院診斷後隨時應需
松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
電話本局 八八八(病院用) 八九八(私宅用)
東洋内科醫院
東京神田區駿河臺鈴木町二番地
(御茶水橋畔)

院長 醫學士 高田畊安
神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱
(停車場所在)
南湖院
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後○同時窮者施診
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
○入院診斷隨時應需○

めりんす友仙
新形太物品々

▲小川未明著 愁人 定價金七拾五錢 △郵税八錢 隆文館發行

日本女子大學校教授 松浦政泰先生編
世界遊戲法大全
家庭の寶典 大學校に 殊に小學校女學校の必備品、社交界に缺くべからざる好參考書、凡そ人の集る所には必ず之を備へよ、賑かに樂しく送りたき時には必ず之を繙けよ、書中遊戲八百五十種 考物や細工物 歌骨牌 花がるたトランプに本双六 文學遊戲や數學遊戲 物理 化學や心理遊戲 夜會に遊戲 餘興 遊戲座敷狂言 活人畫 其他英米獨佛露國を始めありとあらゆる萬國の遊戲は何でもあるのが本書てある
洋布上製最美本 菊判六百九十頁 挿畫三百七十個 言文一致 體總振假名 正價壹圓四十錢 (小包送料十二錢)
東京 博文館 本町

振替貯金一一八五〇六

最上醬油 キハク印
於臺灣路易博覽會 名譽大賞牌受領
釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信略號(キハク)又(ハク)
キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます
日本橋區小網町三丁目 電話浪花五七七四
東京支店 中野長兵衛

明治四十一年二月五日發行(毎月五日廿日二回) 定價金三錢 一ヶ月六錢郵税不要 廣告料一行金六拾錢
編輯兼印刷人 山澤俊夫
發行人 永持德一
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

附録　愛國婦人會記事

本部記事

◉評議員會日取　二月廿六日第四水曜日に開催す。

◉一條松壽院殿薨去　去一月廿五日午後六時二十五分薨去あらせられたるに付き東郷評議員は本會を代表して其邸を弔問せり。

◉奥村刀自法會　故奥村五百子刀自の一周忌法會は來七日淺草本願寺に於て執行せらるゝ由。詳細は第一面の記事及廣告にあり。會員は勉めて參拜せられたし。

◉有功章御親授　去一月二十日午後二時より總裁宮殿下御殿に於て毛利鍋島兩理事に一等有功章を御親授あらせられたり。岩倉會長高松事務長補助列席す。

◉逝去及會葬　評議員佐方鎮子氏母堂逝去に付去一月廿八日午後一時より谷中齋場の葬儀に左記の諸氏本會を代表して會葬せり。

濱尾作子、菊地威子の兩評議員。牧田石崎、長谷川の三幹事外事務員等。

◉總會準備委員會　去月廿三日午後二時開催せり。

支部記事

◉四谷區幹事部　本月一日より五日間區内喜よし亭にて慈善演藝會を開催し、右收得金を以て同區在住軍人遺族並に癈兵を招待し、會員共に慰藉の意を表し、併て會務擴張を圖り度との計畫なる由。

◉施療　休職陸軍三等軍醫正大澤留三郎氏の慈善施療の他尚今回神田區佐柄木町二十一番地齒科醫師藤英三郎氏も同樣本會の趣旨を賛成せられ、癈兵並に同家族及戰死準戰死者遺族の方々に對しては慈善施療をせらるゝ由。施療を受けんとせらるゝ方は、東京支部又は幹事部へ便宜申出てらるべし。

◉有功章御親授　埼玉縣支部會員篠原あさ子氏は五十圓の寄附をなせるにより去一月廿日午後二時總裁宮殿下御殿に於て三等有功章を御親授あらせられたり。

△山口支部近況▽

◉玖珂郡幹事部　新庄村に於ては去月七日午後一時同村第一回總會を尋常高等小學校内に開催、參會者は來賓及會員を併せて約百五十名。福引の餘興茶菓の饗應等ありて盛況なりき。因に同村は戸數僅かに四百貮拾四戸人口貮千參百八十四人内男子千貮百四人女子千百八十人を有する小村なれど村治極めて良好にして近時駸々乎として發展し居れり。現委員の就職當時は會員僅かに拾參名に過ぎざりしが、委員岩政柳介氏は非常なる熱誠を以て東奔西走殆んど寢食を忘れ盡瘁の結果、百五十二名の會員を有し、人口歩合七人七分强に達するの好果を結びたり又氏は幹事部より受くる事務費を節約貯蓄したる結果、今回の總會に際し金參拾餘圓を要せしも、寄附金を募集することなく之を應用し、尚其不足の分は私金を投じて總會を盛ならしめ、大に會務の發展に貢献したるのみならず、時勢の進運に伴ひ來る處の、衣服華美に流るゝの現象を慨歎して會員一般に懇諭し、婦人會總會をして風俗改良の機關たらしめむとし、奢侈矯正の方法として絹布の著用を戒め、參會會員をして悉く綿服を着用せしめたる事是なり。蓋し氏の如き熱誠なる有志あればこそ、わが愛國婦人會は益發展を見るに至るなれ。

△新潟支部近況▽

◉長岡市幹事部　去一月十九日午前九時より長岡高等女學校に於て、軍人遺族並に癈兵招待を兼ね新年祝賀會を開催したり、當日來會者は牧野子爵、林新潟縣事務官、林新潟支部副長、八子仝事務員、谷口醫學博士其他知名諸士の來賓と、幹事以下會員を合せ、五百餘名の多きに及び、先づ總裁宮殿下の御寫眞を拜し、御令旨の奉讀を了し、谷口博士の「婦人の美」なる講演あり。其他餘興等數番ありて午後四時散會したり、此日嚴冬寒威强く窓外雪霏々たるものありしも、滿堂和氣藹々として春の如く、孰れも歡を盡して眞に盛況を極めたりき。

△富山支部近況

富山支部に於ては去月十一日光嚴寺に於て拜賀式及市内會員相互の年賀會に併せて、忠死軍人追悼法會及遺族癈兵慰藉會を開く、午後一時と云ふに會員四百餘名、遺族癈兵百五十餘名參集して、拜賀式を終り、年賀會に移るや川上顧問の會員に對する希望演說あり。終つて追悼會を開き、渡邊光巖寺住職以下數拾名の僧侶の、懇ろなる讀經及回向あり、來賓及職員の燒香を以て其式を閉ち更に慰藉會に移り餘興及茶菓の饗應ありて午後五時散會。近來稀れなる盛會なりき。

△北海道支部近況

去月十一日午後二時より、副長評議員參與相談役及主事事務員等支部樓上に於て、新年會を開き一同食卓に就くや、佐藤副長上京中なる支部長に代りて挨拶をなし、手塚副長今回函館區へ轉住に付、送別を兼たる旨を述終りて手塚副長の謝詞あり。餘興として福引落語事務員速作の唱歌等の催あり。各自充分の歡を盡して午後四時半閉會せり。

△愛媛支部近況▽

◉南宇和郡幹事部　去る一月廿二日午前十時第二回總會を開き、會員は風雪を犯して參着せしも、支部長及顧問は出張の途次天候不良交通杜絕の爲、空しく宇和島に滯在して當日の間に合はざりしは遺憾なりき。三百餘名の來會々員には、折詰辨當を供し福引の餘興もありて、午後五時散會せり。尙同廿四日には天候回復せしを以て職員會を開き、支部長及顧問共臨場の上訓示する處ありたりと。

◉伊豫郡幹事部　渦田村に於ては去月一月九日午後二時半、第一回總會を開き、支部顧問の訓示あり。當日來會者は安藤支部長同顧問其他紳士有志者を併せ、遺族癈兵及會員等無慮二百名、閉會せしは五時頃なりき。

△愛知支部近況▽

去一月十八日午前十時三十分より縣廳内にて、年始會を兼ね役員會を開く出席者は參與並に支部長以下三十三名。參與鈴木隆氏顧問代理として次の如き挨拶あり

[illegible]

右終て支部長の挨拶あり次の如し

[illegible]

以上會議畢て別室に於て茶菓を供し、午後一時過ぎ散會せり。

▲京都支部遊説記▼

京都支部內　富極眞喜子

第一回報告

一月十三日　午前七時三十分着京、入田評議員の出迎を受け俵屋旅館に投す。朝飯終りたる時、室谷事務員來訪せらる。仝十時旅館を出て入田主事大森支部長中澤副長の宅を往訪す。午後二時より支部樓上に於て、故奥村刀自追弔會執行の件に關し、職員集合さるゝな中とし、支部に至り一同に挨拶し會其議席にも列り傍聽したり仝六時歸宿す。

一月十四日　當日は休會、當夜より支部に宿泊することゝせり。

一月十五日　午前九時より本願寺大谷廟所に詣て、故刀自の英魂を弔したり。當日も支部の都合により休會。

一月十六日　午後二時醍醐四條列車にて、大森支部長六角評議員入田主事室谷事務員同行紀伊郡伏見町に赴きたり、會本願寺僧侶弘岡氏井に横川嘉顧氏も出席せられたり、會場なる本願寺別院には、櫻井郡同仝幹事部長其他役員數名待受けられたり。當日は町内男子の重立ちたる者を專ら招待したる由にて、一般の臨者は餘り勸誘せさる幹事部の方針なれは、來會者は五十餘名に過ささるも即ち町の有力家なれは、今後の事業上には却て好結果を奏するならん。最初金松郡開會の辭を述べ次に支部長の挨拶あり次に自分講話次に弘岡氏の演說あり最早や點燈時となりたるを以て、之にて閉會を告げ後別室にて來賓に酒肴の饗應ありたり、我等は七時二十分仝驛發の列車にて歸京したり。

一月十七日　本日は支部にて職員會開催總會其他に關する事件を協議せらるゝを機とし、午後三時より其席に臨み本會の現狀各地方に於ける會務井に活動の狀況及將來の希望に付、講話し、然々職員に依頼せり、五時閉會。

一月十八日　午後〇時二十分七條發の列車にて、市幹事部長島海氏渡邊高井の兩幹事室谷事務員仝行乙訓郡向日町に赴きたり。山崎町幹事岡田氏井に事務員一名停車場へ出迎はれたり。會場なる高等小學校に至れは森本顧問仝幹事部長六人部幹事等待受けられたり午後二時より開會來會者は多く婦人にて約百三十余名森本郡長開會の趣旨を述べ、次に講話五時閉會せり、夫より郡長の厚意により津の國屋に到り、一同晩餐を共にし六時五十分發の列車にて六人部幹事に送られ、歸京したり。

一月十九日　午後二時支部を出て牛井評議員と共に、市内祇園町彌榮小學校に到りたり。入田主事菅谷室谷の兩事務員先着されたり。當日は男山八幡宮祭禮最終日なるを以て、多くの人は皆其方に足を運はせ爲に來會者至て僅少、漸く三十名に過きす、講話は例の如にして五時閉會せり小泉委員、平尾幹事も多用の爲め、途中にして歸られたり。

△新年宴會雜話▽

去一月十七日九段偕行社に於て、開催せし事は當時の本誌に報道したるが、其際記者の見聞せし所感及餘興として成効したる福引中の主なるものを記さば、▼第一は會費の事なり事は些細なるが如きも、斯かる會席に臨まるゝ時は、前より心して其金額を懷紙杯に包み、住所姓名を認めて差出されたきものなり。▼會計係は多數の來會者に應接するものなれば中々に多忙なる事など、思ひやり給ひて五圓紙幣十圓紙幣にて釣錢を求むるやうの所爲、夢にもしたまふべからず。▼男子にても然り、況や婦人としては、斯かる事も修養の一つなるべし。幸ひにして本年の新年宴會は、品性高き貴婦人のみなりしかば、斯かる端した無き振舞は見受けざりしが▼今後もあることなればとて要心ながら書記すになむ。心したまひてよ。▼次には福引の事なり。當日福引中の主なる高價の物品が、誰に贈りしは遺憾なりき。▼就中、趣味最も損ひたるは▼東洋の强國、大日本（墨に本）▼今年の干支、つちのえさる（鍋の上蓋）▼本會理事の内御兩人、鍋島侯爵（鍋「アルミニユーム」とマシマロ「豆腐に見立」）▼淺間山、常に煙を吹く（煙管）▼小說家、書て喰ふ（松魚節）▲非賣品、うらない（單衣地一反）▼昨年の天災、洪水（香水）▼うちきな娘、物をつゝむ（風呂敷）▼松の内、七五三て飾る（帶）▼身を捨て報いまつらん足のさき手のすゑまでもかゝるみめくみ（爪掛、手袋）▼子供十人、產十回（三十回電車切符）▼御垣守る衞士のたく火の夜はもえて晝はきえつゝ物をこそ思へ（ランプ）▼學校の友達、校友（香油）▼笑ふ門には福來る福の神（胡子大黑人形箱入）▼お姫樣車にめさず、おひろい（おしろい）▼官營煙草の收入、あげてしめる（帶揚げ）▼山王の祭禮、山車が出る（松魚節）▼山里、町がない（女の袴地一反）▼日本の將卒、曇りが無い（鏡）▼人望ある敎師、誰がよい（押繪の羽子板）▼人込て御用心、懷中物（紙入れ）▼もろともにあはれと思へ山櫻はなより外に知る人もなし（香）▼愛國婦人會の事業、すくふ（匙コーヒー一打）▼神經質の腦髓、過敏（花瓶）▼勤王家、君を護る（玉子）▼本會の事務長代務、一本脚で働く、傘（上等洋傘）▼箱入娘、表に出さぬ（裏地一反）▼裁判官、もつれとく（櫛）▼吉野山の嵐、花を吹く（ハンケチ）▼火災保險の鑵、燒かん（藥罐）▼西洋婦人の頭、束髮（卷紙）▼廣告札、營利に撒く（[illegible]）▼ハイカラの氣焔、大風呂敷を廣げる（大風呂敷）▼いにしへのならの都の八重櫻けふ九重に匂ひぬるかな、（御園香油）▼好男子、美人がつきまはる（羽子板）▼情深き夫婦、兩方から燒く（カステラ）▼媒介人、はなれ／＼を丸くする（桶）▼ヒステリー性、あり好する（牛蒡）▼軍人の風采、りりシイ（リリー四ツ）▼本會の遊說員、といてすゝめる（懷中汁粉）▼本日の新年會、中に君樣がいらしやる（玉子一箱）▼一家の旅行、夫婦子供のたび（足袋大小四足）▼本會の顧問、日本名士の揃（銘酒種々）▼常陸の名山、筑波峰（つくばれ豆の菓子一箱）其他▼敷島一箱、紋付一反、双子縞一反、時計、合羽地一反、化粧品等材料頗る豐富なりき。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社告

子爵小笠原長生閲　佐藤正校　愛國婦人會編

奥村五百子詳傳

△一部金五十錢　郵税四錢

本會の主唱たる奥村刀自の傳記は明治昭代に於ける日本婦人の活動的歴史なると同時に一面は本會發達の歴史なり先般來本會之れが編輯に從事し今や彌々遠からずして出版の運びに至らんとす本傳記は四百頁以上の書冊となし其間に寫眞版を挿み文章を平易にし一般普及を旨とし汎く姉妹に頒たんとす此際可成速に陸續購讀方本會又は本發行所へ申込れたし尚本書よりして得たる多少の利益は擧げて奥村刀自紀念碑建設の費用に供し度に付可成多數に購入ありたし

發行竝に賣捌所　愛國婦人發行所

支部記事（一面より續く）

○青森支部　青森支部に於ては本年は支部總會の計畫もあり此場合に會旨の擴張を要するに搗てゝ加へて本會にては總裁殿下の令旨に基き全國の會員を百萬人に充たす方針なれば益々に會旨の貫徹を計らざるべからざることゝなりければ愈々首藤專務員は幻燈器を携へ漸次各郡市へ出張し大に鼓吹する由なるが最早映畫も大要整ひたれば前年度の決算調成を待つて先づ希望の上北郡内へ出張するは多分本月中旬ならんと云ふ▲弔詞贈呈　西部寄戸村委員工藤武雄氏は陳一弘前市へ轉地療養中の處藥石効なく去月三日逝去につき當支部長より弔詞を贈り追悼の意を表せられたりと

○盛岡支部　岩手郡米内村長一方井貫三郎行村長生内線道同厨川村長似島英同川口村長佐藤喜右衛門以上の諸氏に對して今回愛國婦人會岩手縣支部頭書の幹事部委員に囑託されたり▲同會岩手支部評議員兼幹事村井やす仝宮杜芳以上の二氏今回都合に依り辭職に付會長よりそれ〳〵感謝狀を贈與したり▲幹事補晴山まつ子仝辭職に就き笠井支部長より感謝狀を送られたり▲仝會岩手支部二戸郡幹事部會員阿部さめ子に對し仝幹事部幹事を囑託されたり

○秋田支部　秋田支部に於ては今回縣下の軍人遺族及廢兵中生計困難なる者二百十六戸に對し四十年度救護金を贈與したり救護金額は三圓、六圓、十二圓の三種にして總計千四百九十六圓なり因に本部救護金は六圓を超過するを得ざる趣にて十二圓給與の者に對しては支部より六圓を補給せしなりと而して郡市別人員金額左の如くなりと云ふ

秋田十五人　八十七圓▲河邊十三人　八十七圓▲仙北三十九人　二百九十一圓▲平鹿三十四人　二百六十四圓▲雄勝十五人　五十四圓▲由利二十七人　二百十九圓▲南秋田二十二人　百三十八圓▲北秋田二十二人　百七十七圓▲山本十四人　七十八圓▲鹿角十五人　九十九圓

又金額別の人員參圓宛八十六戸、六圓宛五十四戸、十二圓宛七十六戸なりと

◎宮城支部　本年九月第一回總會を開くに付近日之が準備に關する協議會を開く由尚ほ又支部長鑑井眞洲子は同會擴張に盡力されたる各郡市長顧問役員等を招待し去月二十一日正午北一番丁赤十字社樓上に於て午餐會を催したり

◎栃木支部　中山支部長は宇都宮市内愛國婦人會員中の重なる五十餘名を去月十八日午後一時知事官邸に招待し新年會を兼ね茶菓の饗應を爲せしが餘興としては福引等あり各歡を盡して散會せしは四時十八分といふ時なりき

◎新潟支部　當支部より縣下軍人遺族及廢兵に對し此程四十年度定期救護金左の通り贈與されしが尚贈與すべき人名に付調査中の由

郡名	人員	金額
西蒲原郡	二人	金九圓
刈羽郡	三人	金九圓
西頸城郡	十人	金四十二圓
佐渡郡	二十五人	金八十七圓

因に記す四十年度に於て同會より縣下軍人遺族、廢兵に對して贈與されし總金額二千九百五十二圓にして其人員は八百二十五人に上れりと

○靜岡支部　引佐郡奥山村にては愛國婦人會靜岡支部幹事近藤鈴子の會務擴張の爲め出張されしを機とし去月十六日午後二時より奥山尋常高等小學校に同村春季母姉會を開き出席者は母姉、役場員、學校職員二百餘名杉山村長の開會の辭に次き小山郡長夫人の簡單なる挨拶あり次て近藤鈴子は愛國婦人會起原經過及現況を詳細に說明し更に母姉の希望に依り家庭談を試み終つて隣室に於て茶話會を催し出席者は三十餘名近藤夫人一場の談話をなし午後七時閉會直に同地出發氣賀町に向ひたり

○神戸支部　去月十五日午後二時より山手倶樂部に於て支部役員會を開き本月七日に執行する故奥村五百子刀自一週年追善會の協議をなす又東京本部より遊說員宮崎きさ子女史を聘し當日は一場の講話を聽けり

○和歌山支部　本縣下に於ける昨十二月末日現在調査の愛國婦人會員數を聞くに終身特別會員五十三名特別會員二百五十一名終身通常會員百九十六名通常會員三千四百七十二名の合計三千九百七十六名なりと

◎島根支部　同支部にて昨年度に於て軍人遺族廢兵へ贈與したる救護金並に其人員左の如し

幹事部名	金五圓宛 金額	金五圓宛 人員	金九圓宛 金額	金九圓宛 人員	合計 金額	合計 人員
八束	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
能義	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仁多	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大原	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
飯石	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
簸川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
邇摩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
邑智	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
那賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
美濃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鹿足	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
周吉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
穏地	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

△備考　本會よりは一圓と五圓宛贈與したるに支部より二圓と三圓宛を加へ本表の通り贈與せしなり松江安濃にはなし

○愛媛支部　周桑郡幹事部にては去月十三日より仝會事務員中野郡書記仝會役員及居村々長同郡各被救護者の宅に臨み夫夫慰問をなし救護金を交付し居れるが間間一家の狀態哀れを極むる者ありて仝行者一同暗涙にむせぶとなり

○廣島支部　愛國婦人會廣島幹事部にては海塚イツ(塚本町)、保田セイ(京橋町)の兩氏に幹事を又藤澤大道(臺尾町)、甲房吉(堺町)、高橋伊三郎(西地方町)、落利吉(播磨屋町)、三好ツネ(稻荷町)の五氏に委員を囑託したり又本市宇品町の婦人同志を以て組織したる矯風會は會費の剩餘金及び會員の寄附金計四十餘圓を今同市内の廢兵三十餘名に對し分贈せんとにて同會長長安都留イ氏より其筋に對し申出でたる由なるが愛國婦人會廣島幹事部にては右矯風會の擧を賛し此程分贈金内に十圓寄附したりと

○熊本支部　熊本支部にては去月六日午後零時三十分より縣會議場に於て支部初會を開きたり當日は役員諸氏の斡旋に依り室内の裝飾完備し總裁宮殿下の眞影を奉安し河内山主事開會の辭を述べて、の幔幕を揭げ同時に君が代の唱歌奏樂一同敬禮夫より押川支部長夫人、西島副支部長夫人石原旅團長夫人の挨拶終りて四十年度事業并に會計等の報告ありて式を終り各種の餘興あり盛況を呈したり從來の會員數は特別二千八百七十一、通常一萬八千二百四十七なりしが擴張の結果本年に至り一千八百十九人を增加せり又陸海軍人、廢兵等を救護したるもの六百六十五人なりし

犠牲の勇士

東亞の風雲亂れに亂れて、雨雲となり颶風となりて、遂に滿洲の野に巨鷲と蜻蛉と、干戈相執りて見ゆるに至りし時、わが國民を代表して、一死以て君恩に盡し、益武夫の數おほき中に山口縣佐波郡島地村五百廿八番地に住める、元陸軍步兵二等卒中村初藏氏と云へるは、戰雲酣はなりし三十七年二月廿三日鍬に代へて、召集に應じて出征し三月八日步兵第四十二聯隊第十一中隊へ編入せられ、同日遂に奮鬪力戰の末、いたましくも、肩と胸と顔とに銃劍を受け、寒威凜烈なる野外に倒れ臥したる爲、凍傷にかゝり且つ手先、脚部をさへ切斷するに至り、其さま、悲壯を極めけるが、廢兵となりて歸國するや、弟武治氏(二十)妹はる子(十)と共に貧にして初藏氏を扶養すること難し。あはれなる勇士よ。兵役免除となりて歸鄉するも據るべきに人なく、居るべきに家なし。あまつさへ資產とても無き

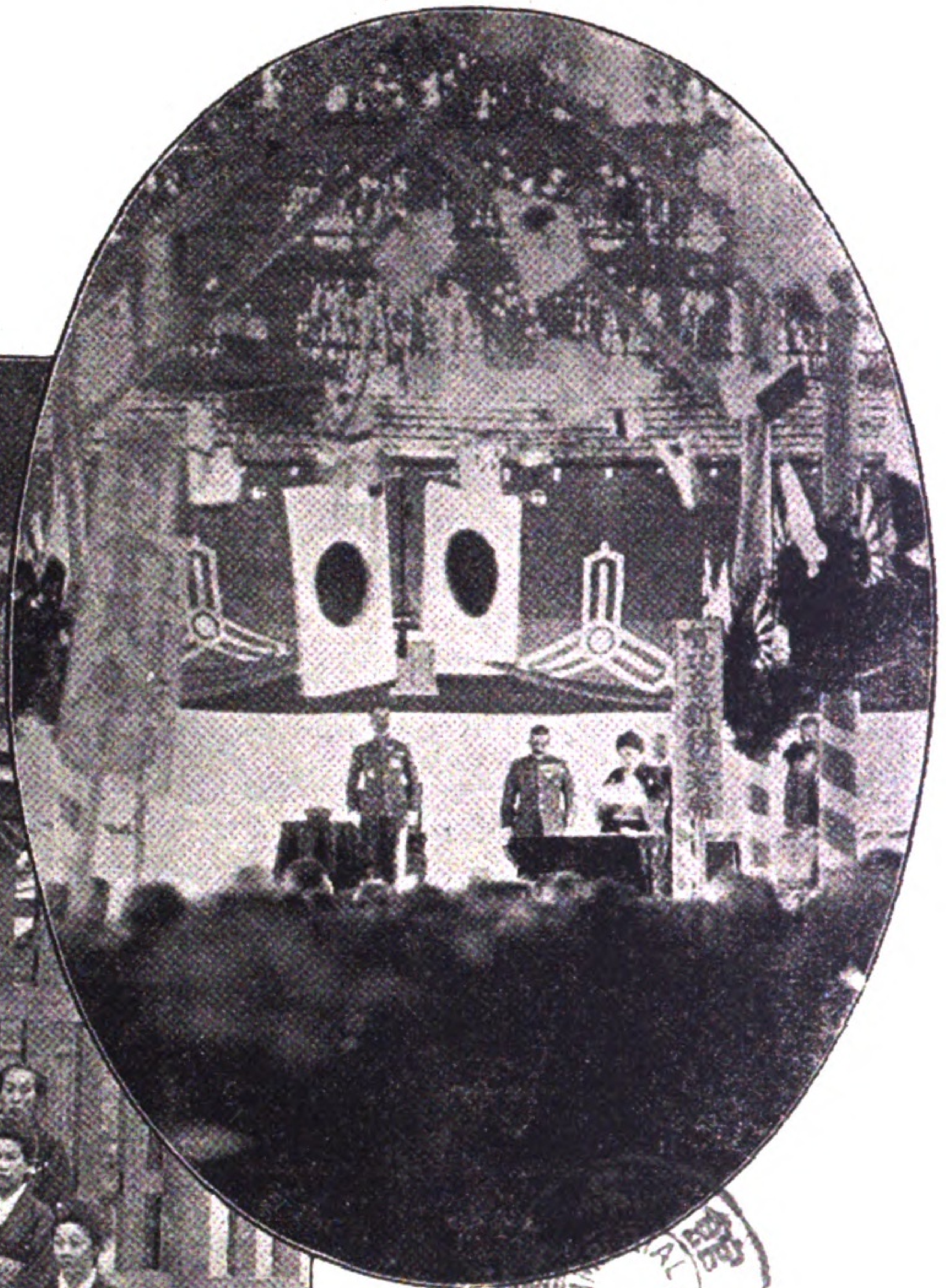
明治卅八年奉天附近ノ役銃劍創ヲ受ケ且凍傷ニ罹リ兩脚下腿三分ノ一ヨリ切斷左手亦拇指ヲ存スルノミナル犠牲ノ勇士中村初藏氏癈失後ノ肖像

身は空しく天を仰ひて饑死を俟つのみなり。然もわが愛國婦人會は、斯かる悲壯なる勇士を、如何て其儘見過すに堪へんや。山口支部は遂に天來の福音を齎して、彼を慰藉せり即ち臨時救護金三拾圓を贈與して其急を救ひ、一時其緣家なる同村津島濟兵衛方に同居し、近隣有志の同情と、當部臨時救護金を以て漸く其日を過すの有樣なりき。茲に島地村報公會は部内の有志者に訴へて基金壹千圓を募集し、之より生ずる果實を以て、每年彼が生計費の幾分に充つるの計畫を爲し、義金募集に着手せしも、其成蹟意の如くならず、漸く金參百五拾圓を積立て得たるも、此の上醵集の見込なきに至れり。三十九年八月有志の周旋に依り、彼に妻を迎へしめ專ら看護に從事せしめしに、家庭睦くして克く彼を保護し、又癈兵初藏氏は曾て、臺灣總督府雇を奉職したる事もあり、幸にも右手のみは完全にして筆寫に堪ゆべきに依り、代書業を營ましめむことを企圖し山口區裁判所島地出張所附近に於て、一家を借受け同業を開始せしめしに、地方の人士大に同情を寄せ、爭ふて彼に代書を依囑するの好況を呈し、傍ら收入印紙賣捌及煙草小賣業をも開始せしめたるを以て、之が爲め日々若干の收益を得ると山口支部救護金とに據り、生活の途は微か乍らに立てらるゝに至りぬ。其上論功行賞に依り勳八等に敍せられ、金八拾圓を賜ひ、又免除及增加恩給年額百參拾參圓四拾錢を給せらるゝに至りしを以て、此憐むべき癈兵初藏氏は、茲に漸く慘憺たる悲境を脫するを得たるなり。

光榮赫々たる戰勝國の裏面にも、常に斯の如き勇士の犠牲あることを知らば、會員諸姉も此際徒らに戰勝の美果にのみ醉はずして、一層本會の發展と擴張とを心掛けられたき事にこそ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十一年二月五日（毎月二回五日廿日）明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）



愛國婦人會宮崎支部總會紀念撮影

發行兼印刷人山澤俊夫 編輯人永持德一 發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「愛國婦人見本は無代で進呈す

上流社會の婦人方は悉く『愛國婦人』の同情者なり

七十餘萬の同情者を有する全國無比有益多趣味なる家庭敎育雜誌「愛國婦人」は今や更に大發展の機運に向ひつゝあり。詳細は裏面の社告を見て知り給へ

日本唯一最廉なる家庭雜誌

愛國婦人

臨時增刊

第百四十六號

▼每月二回▲五日二十日發行▲
▲一部金參錢▲壹ヶ月金六錢▲半年分金參拾六錢
▲壹年分金七十二錢▲全國無遞送料▲廣告料一行六十錢▲本號定價金壹錢全部禁轉載
發行所　東京麴町區飯田町一ノ一　愛國婦人發行所
發賣所　東京京橋區南鍋町二丁目　株式會社隆文館
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　永持德一

余が見たる愛國婦人會

伯爵　大隈重信

左は特に記者に對し伯爵のものせられし談話の要領なり、文字の責は記者にあり

◉**婦人會の效果**　貴婦人方が理想として居らるゝ會の主たる目的に對する效果は甚しく事業が大きなだけに十分に理想通りに往かぬかも知らぬがこれが副効果と云ふ可き日本全國に空前の婦人の大團體を作り婦人社會の活動力を奮起せしめたと云ふ事は大なる成功と云はねばならぬ

◉**婦人の地位を高む**　愛國婦人會が其端を開いて日本婦人の地位を高めたと云ふてよろしい從來の日本婦人は等しく社會の人でありながら社會の一員として認められず社會の事業は婦人では出來ないものとなつて居つたが愛國婦人會が茲に其端を開き時恰もよし日本空前の大戰爭に際し國民の愛國心の勃興に乘じ社會に向つて善を行ふ事を勸め婦人と雖も社會の爲に盡す可きものである事を認めしめ社會的の事業を婦人の力に依て營むに至つた偉功は大なるものであつて將來の國民の爲め又我國民族の爲め婦人界の先覺者となつた譯で之れよりして家庭の改善も行はれ社會の風俗も矯正する事が出來る事と思ふ

◉**惻隱の心**　凡そ慈善事業は惻隱の心から起るもので惻隱の心は眼のあたり其物を見る時程盛んなものはない孟子の所謂る兒の將に井に陷らんとするものあれば其善人たると惡人たるとを問はず唯れしも走つてこれを救ふのである戰爭中は國民の愛國心が勃興して居るが戰爭が濟むと自然に靜態に復歸するものであるから戰爭後が最も注意を要するので光榮ある軍人遺族及癈兵に對しても國家又は社會に於て、決して打捨て置くものでは無いと信ずるのである。

はしがき

婦人と慈善事業

慈善事業が漸次發達して參りますに就て、其局に當る人々は慈善の本旨を十分に知つて、其途を誤らぬやうにせねばなりません。それて斯道に明るい方々の御意見を御紹介致すことにしました。文責は凡て記者に御坐います。

其一　留岡幸助

◉**慈善の三要素**　慈善事業は總ての事業の内に於て最も高尚なる事業でありますが之に從事するものは先づ須らく慈善問題を學術的に研究せなくてはなりませぬ私の考へては慈善には三つの要素が必要であらうと思ひます第一は慈善家は宗敎家でなくてはならぬ事第二は實業家の後援がなくてはならぬ事第三は婦人の力によるべき事であります以下少しく之を陳べて見ませう

◉**慈善家は宗敎家たる事**　如何に美はしく高尚なる主旨の慈善事業でありましても之を起さんとする人の精神に宗敎的の根據がなくては發達致しませぬ事業の高尚なるだけ夫れだけ、之を行ふ人の心も一層高潔て一點私慾の念慮がありましてはなりません且其事業を起すに至りまして動機は人間以上何等かの存在を認め所謂靈氣に感觸して始めて立つものでなくては到底終局の美を完ふする事は出來ません

◉**實業家の後援ある事**　日本で慈善事業の振はない第一の原因は實業家の後援がないからであります日本て慈善を行ふの人は常に金のない人てありますから他人は慈善の爲に是等の人が衣食するのではないかと疑ひ何程熱心てあつても成功しません。歐洲にては發達した慈善事業には必ず其後ろに實業家が伴ふて居りますから十分に發達します元來慈善事業は金錢と關係が深いものてありますから金の貢がなくては發達致さんのは又無理もないとてあります併し慈善家は實業家から金を乞食すると思ふと間違ひです富豪家が金錢を有益に使用するの途を知らぬから慈善家が富豪家に代つて之を有益に使用するのてあつて富豪家の爲にも又慈善なる譯てあります

◉**婦人の力による事**　近來日本でも著しく婦人が慈善事業に盡さるゝ樣になりましたのは甚だ喜ぶべき現象であります凡そ如何なる慈善事業にても之を發達せしむるには婦人の力を要します私が歐米各國の慈善事業を巡視致しました時でも其の多くは婦人の働に依て成立して居ります而も時間に餘裕ある貴婦人が働いて居られます婦人が此如き高尚なる事業に從事せらるゝ事は社會の利益のみてなく又婦人自身の利益でもあります即ち戶外の運動其度に適ふ爲に自ら煩ひ苦む胃病又は神經病を癒し又貧民に接しますから自然に自分が幸福てある事を悟りまして金錢ヶ大切に扱ふやうになりまするし又被救助者が滿身より發する喜びを目擊して大に慈善心の奬勵となる等其の有益なる事は數ふるに暇ない程てあります故に婦人は專ら慈善事業に從事されん事を望みます。

*　*　*　*　*　*

其二　東京美術學校長　正木直彦

慈善事業は、實に女子に限るのであつて、男子が行つたのては、感化が薄いが、女子が之に從ふと非常に能く行はれる、何故かと云ふに、女子は大變同情に厚く、喜ばしいことがあれば俱に喜んてやり、悲いとがあつたら、俱に悲しんてやり、又總て他人のことを思遣る力が非常に深ふございますから、それて女子は慈善の事柄に就ては、自然にそれを天職として生れて居る者と見へまして、女子が慈善事業を行ふと、深く世間の感動を惹起し、又それに依て、男子の同情を喚起すこともある。故に、慈善の事柄は、どうしても女子が卒先してやらねばならぬ、又女子が卒先してヤッたならば、必ず成功することてある。

此慈善の事柄と云ふものは、何れの國ても、昔から多少あるものでございますけれども、我國に於きましては、畏れ多くも皇后陛下が、同情の深き思召をもちまして、此慈善の事を御勸奬遊ばされて、屢々、病傷兵士を御見舞になり、或は御手づくり遊ばされた綿撒絲を賜はると云ふやうなことは、實に如何ばかり世間の貴婦人、又は男子に感化を與へらるゝてありませうか。陛下が、御見舞遊ばされると申しても、悉くの病傷兵士を、御見舞遊ばさることはなく、又綿撒絲を賜はるとても、さう澤山に御手か遊ばしたものがある筈はない。けれども、其同情に富んて居らせらるゝと云ふことと、それから、其外の思召と云ふものが、難有いと云ふので、他の貴婦人令孃等が、奮發し、それに依て、どの位外の者が感激したか、難有いと思うて其思召に感泣する所が、非常に廣しと云はなければならぬ。斯樣な力と云ふものは、男子では迚も有つことが出來ぬ、是は女子の特有と云ふべきものてあります。

奥村五百子刀自追懐

下田歌子

『愛國婦人』購讀申込は目下が好時機なり

(明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可)

明治四十一年二月十一日發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN